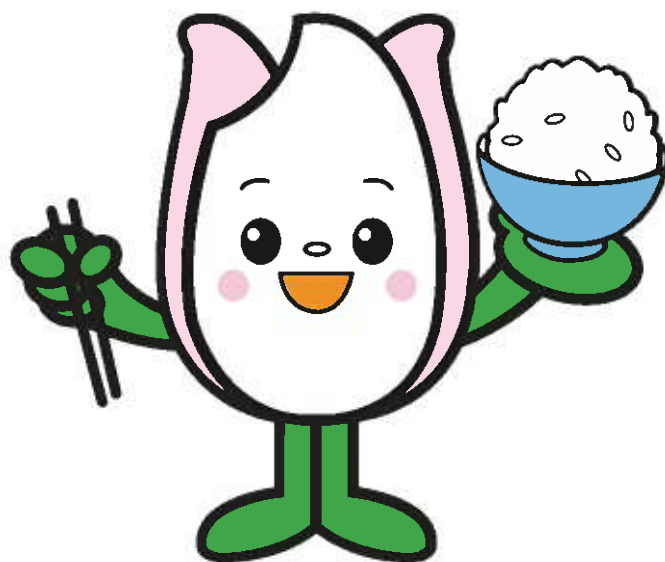


(案)

資料 1

令和 6 年度 食育推進施策 実施状況報告書



新潟市食育・花育推進キャラクター

まいかちゃん

この報告書は、新潟市食育推進条例（平成 19 年条例第 3 号）第 21 条の規定に基づき、食育の推進に関して、令和 6 年度に講じた施策について報告を行うものである。

第4次新潟市食育推進計画の概要

第4次新潟市食育推進計画

1. 基本理念

本計画は、新潟市食育推進条例の基本理念に基づき、食を取り巻く現状から見えてきた課題や、第3次計画の評価を踏まえ、市民一人ひとりが生涯にわたって健全な心と身体を培い、豊かな人間性を育むことができるよう施策を総合的かつ計画的に推進し、もって生き生き暮らせる活力ある住みよいまち新潟の実現に寄与することを目的とします。

新潟市食育推進条例（概要）

基本理念（第3条）

- ①心身の健康の保持・増進、豊かな人間性の形成、感謝の念の醸成等
- ②自発的な意思の尊重、家庭が重要であるという認識のもとでの関係者の有機的な連携
- ③特に子どもたちに対する積極的な取組
- ④生産者と消費者との交流による地域の活性化や環境と調和のとれた食料の生産・消費

施策の基本となる事項（第11条～第18条）

- ① 家庭における食育の推進
 - ・市民の健全な食習慣の確立
- ② 学校、保育所等における食育の推進
 - ・食に関する指導内容・指導体制の充実や学校給食等の活用等
- ③ 地域及び職場における食生活改善のための取組の推進
 - ・食育の専門的知識を有する者の養成や活用、食育の普及啓発活動の推進
- ④ 地域の力を生かした食育の推進
 - ・各団体その他の地域の力を積極的に生かした食育の推進
- ⑤ 生産者と消費者との交流
 - ・信頼関係の構築
 - ・地域の活性化や環境と調和のとれた食料の生産・消費
- ⑥ 地産地消の促進
 - ・地域における積極的な消費や学校、保育所等における利用の促進
- ⑦ 食文化の継承のための支援
 - ・地域の特色ある伝統的な食文化の継承
- ⑧ 食育の普及・啓発等
 - ・食育の普及啓発及び食品の安全性その他の食育に関する情報の発信

2. 基本目標

第3次計画では、20～30歳代の若い世代における、朝食の欠食や食文化の継承などの課題が残りました。また、食品ロスや地産地消など、持続可能な社会の実現に向けた食育をより一層推進していくことが大切だと考えられます。そして、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から家庭内食が増加し、新しい生活様式に対応したデジタル化の推進など、社会情勢の変化も見られます。

第4次計画では、こうした状況やこれまでの取組成果と課題を踏まえ、豊かな自然環境のもとで米その他多種多様な食料が生産され、都市と田園が共存しているという、新潟市の特色ある基盤を生かし、新潟市民が「食べることは生きること」を基本として捉え、環境に配慮しながら、新潟の食へ自発的に関心と誇りをもつことを目指します。

基本目標【1】食を楽しむ

若い世代を中心として、まずは食を楽しむことをきっかけとし、自発的に食へ関心を高めていけるよう、取組を推進していきます。また、新型コロナウイルス感染症の影響による家庭内食の増加に対応し、調理体験や収穫体験、食育マスター等による食育活動を通して、共食などの家庭食の重要性の再認識を図りながら、食育への関心を高めることを目指します。



基本目標【2】食を大切にする

私たちの食生活は自然の恩恵の上に成り立っているということを認識し、豊かな自然環境に恵まれた本市の特長を生かし、環境と調和のとれた持続可能な食料生産と消費に向け、地産地消や食品ロス、新潟の食文化の継承に関する取組を推進します。



基本目標【3】食で健康になる

食は生きる上での基本であり、「食べることは生きること」と認識し、生涯にわたって心身ともに健全で豊かな生活を送れるよう、切れ目のない食育を推進していきます。

子どもや子育て世代を中心とした朝食摂取率の向上や、食に関する正しい情報を選択できるよう取り組むことで、健全な食生活の実践を目指します。



3. 施策の視点・考慮すべき点

計画の推進にあたり、下記の3項目を施策の視点や考慮すべき点として、取組を推進します。

若い世代に対する取組強化

- 進学や就職で生活環境が変化し、食生活の自立が求められることから、食への課題が多い学生や働く世代等の若い世代へ、大学や企業等と連携を図りながら重点的に取り組み、食への関心を高めます。
- 子育て世代の食環境は子どもの基本的生活習慣の基礎づくりへの影響力が大きいことから、家族で健全な食生活を実践することができるよう、食や健康への関心を高める取組を推進します。

「新たな日常」への対応

- 「新たな日常」「新しい生活様式」による暮らしの変化を踏まえ、デジタル化に対応し、ICT等を活用した新しい視点での効果的な情報発信に取り組みます。
- 在宅時間の増加傾向を踏まえ、家庭における食育の推進を図ります。

食育の推進によるSDGsへの貢献

- 食育の推進は17の目標のうち、特に「目標2. 飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する」、「目標3. あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する」、「目標4. すべての人々への包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する」、「目標12. 持続可能な生産消費形態を確保する」について、貢献することが可能であると考えられています。食育を通して、健全な食生活の実現や豊かな食文化の継承、食品ロスの削減など、SDGsへの貢献を視野に入れ、推進を図ります。

コラム

「持続可能な開発目標 SDGs」とは

2015年9月に国連サミットで採択された、2030年までに持続可能な世界の実現を目指す国際目標です。17のゴール、169のターゲットから構成されており、「誰一人取り残さない」社会の実現を目指しています。

食育の推進は、我が国の「SDGsアクションプラン2021」(令和2年12月持続可能な開発目標(SDGs)推進本部決定)の中に位置づけられており、SDGsの達成に寄与するものであるとされています。



4. 施策の体系図

新潟市食育推進条例における目的

- ① 市民一人ひとりが生涯にわたって健全な心と身体を培い、豊かな人間性を育む
- ② いきいき暮らせる活力ある住みよいまち“新潟”の実現

基本目標【1】

食を楽しむ

基本目標【2】

食を大切にする

基本目標【3】

食で健康になる

施策の視点・考慮すべき点

若い世代に対する取組強化

「新たな日常」への対応

SDGs への貢献

5つの基本的施策と主な取組

1. 地域における食育の推進

- (1) 食育推進運動の展開
- (2) 健康寿命延伸につながる食育の推進
- (3) 各種企業・団体等との連携・協力体制の確立
- (4) 地域の力を生かした食育の推進
- (5) 職場における食育の推進
- (6) 拠点施設における食育の推進
- (7) あらゆる広報媒体を活用した食育の普及啓発、情報の発信

2. 家庭における食育の推進

- (1) 望ましい食習慣や知識の習得
- (2) 妊産婦や乳幼児に関する食育の推進
- (3) 在宅時間を活用した食育の推進

3. 学校、保育所等における食育の推進

- (1) 保育所等における食育の推進
- (2) 小・中学校における食育の推進
- (3) 給食を通じた食育活動の推進
- (4) 高校、大学等における食育の推進

4. 環境に配慮した食育の推進

- (1) 農林漁業体験を通じた食育の推進
- (2) 地産地消の促進
- (3) 食文化の継承につながる食育の推進
- (4) 食品ロス削減につながる食育の推進
- (5) 環境に配慮した消費の推進

5. 食の安全・安心に関する食育の推進

- (1) 食品の安全性に関する知識と理解の増進
- (2) 食品表示の理解促進

第4次新潟市食育推進計画 数値指標

No.	指 標	測定時 (令和3年度)	令和4年度	令和5年度	令和6年度	目標値 (令和6年度)	課題・今後の対応等	所管課	出典	
【1】食を楽しむ										
1	食べることを「楽しい」と思う市民の割合	73.3%	—	—	69.9%	80.0%	「楽しむ」ことから食への関心につながるよう、引き続き啓発を図る。	食と花の推進課	R3(1) R6(7)	
2	1日に1回以上、誰か(家族・友人・知人等)と一緒に食事をしている市民の割合	80.9%	—	—	81.6%	90.0%	「食育の日」の普及啓発と関連し、「共食」の周知も図る。	食と花の推進課	R3(1) R6(7)	
3	農林漁業体験を経験した市民(世帯)の割合	47.1%	—	—	56.5%	50.0%	農林漁業体験がさらに市民に浸透し、楽しみながら食への関心が高まるよう取組む。	食と花の推進課	R3(1) R6(7)	
4	アグリ・スタディ・プログラムを体験し、本市の農業への誇りが醸成された小・中学生の割合	94.0%	95.1%	92.0%	93.0%	100.0%	本市の農業への誇りが醸成されるよう、取組を継続する。	食と花の推進課	(2)	
【2】食を大切にする										
5	身近な場所とれた食材を選ぶ市民の割合	74.8%	—	—	74.6%	80.0%	給食や食文化継承とも連携させ、地元の農産物のPRを図る。	食と花の推進課	R3(1) R6(7)	
6	「食品ロス」を減らすために取り組んでいる市民の割合	93.1%	—	—	97.0%	95.0%	組織横断的な体制により、今後も食品ロス削減に向けて積極的に取り組む。	循環社会推進課 食と花の推進課	R3(1) R6(7)	
7	学校給食における地場産物を使用する割合(食料ベース)	県内産	58.4%	57.2%	59.9%	56.8%	60.2%	区役所等との連携のもと、地産地消に協力的な生産者と学校等を繋ぐなど、地場での取組を地道に積み重ねること、地場産物の提供を通じた食育の推進を図っていく。	保健給食課 食と花の推進課	(3)
		(参考)市内産	24.7%	25.4%	25.3%	24.3%	—			
8	小学校における「食に関する指導」実施校の割合	94.3%	—	—	97.1%	100.0%	家庭や地域との連携しながら、食育指導を推進する。		(4)	
9	食文化(郷土料理や行事食)を受け継いでいる市民の割合	18歳以上	53.7%	—	—	42.3%	70.0%	SNS等を活用し、郷土料理や行事食の周知を継続して実施する。また、保育園や学校での給食提供を通じ、子どもへの普及啓発につなげる。	食と花の推進課	R3(1) R6(7)
		18～39歳	41.5%	—	—	34.5%	60.0%			
【3】食で健康になる										
10	「主食」、「主菜」、「副菜」の言葉や意味を知っている市民の割合	18歳以上	80.0%	—	—	—	90.0%	広報や各種講習会、健康教育を通じ、引き続き普及啓発を図る。	健康増進課 食と花の推進課	(1)
		18～39歳	79.9%	—	—	—	90.0%			
11	主食・主菜・副菜のそろった食事をしている市民の割合	18歳以上	63.2%	—	75.4%	—	80.0%			(5)
		18～39歳	54.3%	—	58.4%	—	70.0%			
12	朝食を欠食する市民の割合 ※18～39歳:1週間で「週に1～2回食べる」「ほとんど食べていない」と回答した割合 ※小・中学生:1週間で「ほとんど食べていない」と回答した割合 ※小学生・中学生は全学年を対象とする	18～39歳	23.2%	—	23.9%	—	15.0%以下	市ホームページ等でのレシピ公開や各種講習会、健康教育を通じ、引き続き普及啓発を図る。	保健給食課	(5)
		小・中学生	1.9%	2.3%	2.6%	2.5%	0.0%	他部署や民間企業と連携し、食育・健康教育の普及啓発に取り組む。		(6)

【出典】

- (1)令和3年度「食育」に関する市民アンケート調査(食と花の推進課)
 - (2)令和6年度 児童・生徒の農業についての意識調査(食と花の推進課)
 - (3)令和6年度 学校給食における地場産農林水産物の使用状況調査(保健給食課)
 - (4)令和6年度 学校における「食に関する指導」の取組状況調査(食と花の推進課)
 - (5)令和5年度 新潟市民の健康づくりに関する調査(保健所健康増進課)
- ※(5)を出典とした指標は、現状値において無回答を除いた有効回答数で再計算したため、新潟市健康づくり推進計画(第3次)の最終値と異なる。
- (6)令和6年度 新潟市生涯・学習意識調査(新潟市立総合教育センター)
 - (7)令和6年度 第51回市政世論調査(広報相談課)

【年齢区分について】

- ベースライン値となるR3年度「食育アンケート」は18歳以上対象(当該実施)
 - 指標11「主食・主菜・副菜のそろった食事をしている市民の割合」について (R5年度数値)
 - 「20歳以上」「20～39歳」で「1日2回以上」と回答した割合を記載
 - 指標12「朝食を欠食する市民の割合(18～39歳)」(R5年度数値)
 - 「20～39歳」で「週に1～2回食べる」「ほとんど食べていない」と回答した割合を記載
 - R6年度実施の世論調査について
 - 調査対象は15歳以上
- 健康づくりアンケートは20歳以上が対象であったため、20歳以上のデータを掲載(保健所健康増進課実施)

各施策の取組実施状況の概要と 主な事例報告

令和6年度食育関連事業一覧

基本的施策と主な取組		事業名	所管課	頁
1. 地域における食育の推進	(1) 食育推進運動の展開	「食育の日」協力店と連携した「食育の日（毎月19日）」の普及啓発	食と花の推進課	11
	(2) 健康寿命延伸につながる食育の推進	ちょいしおプロジェクト 「野菜deちょいしおメニュー」の提供	保健所健康増進課	12
		生活習慣病予防等における健康教育の実施	保健所健康増進課	13
		健康相談の実施	保健所健康増進課	14
		骨粗しょう症予防相談会の実施	保健所健康増進課	15
	(3) 各種企業・団体等との連携・協力体制の確立	学生・企業と連携した食育の推進	食と花の推進課	16
	(4) 地域の力を生かした食育の推進	新潟市食育マスターの登録・紹介	食と花の推進課	17
		食生活改善推進委員養成講座及び研修会・勉強会の開催	保健所健康増進課	18
		健康増進普及講習会の実施	保健所健康増進課	19
		おやこ収穫体験	西区農政商工課	20
		西地区公民館・コミュニティ佐潟主催事業 親子料理教室「親子クッキング教室」	西地区公民館	21
		桃山校区コミュニティ協議会連携事業 「楽しく作ろう親子料理教室」	中地区公民館	22
		子ども体験教室「キッズパティシエ」	黒埼地区公民館	23
	(5) 職場における食育の推進	働き盛り世代へのメルマガによる健康情報の配信	保健所健康増進課	24
		給食施設指導会の開催	保健所食の安全推進課	25
		明生園「旬の食材を用いた行事メニューの提供」	障がい福祉課明生園	26
	(6) 拠点施設における食育の推進	主催料理教室の開催	食と花の推進課 (食育・花育センター)	27
		食育ミニ体験の実施	食と花の推進課 (食育・花育センター)	28
		団体系体験プログラムの実施	食と花の推進課 (食育・花育センター)	29
		食の情報展示	食と花の推進課 (食育・花育センター)	30
		アグリパーク体験事業	食と花の推進課 (アグリパーク)	31
	(7) あらゆる広報媒体を活用した食育の普及啓発、情報の発信	健康レシピ等の掲載	保健所健康増進課	32
		食生活改善推進委員作成のレシピの掲載	江南区地域総務課	33
2. 家庭における食育の推進	(1) 望ましい食習慣や知識の習得	アルビde食育・健康づくり	食と花の推進課 保健給食課	35
		給食を通じた家庭への食知識の普及啓発	保健給食課	36
		「よく噛むこと」等の重要性を含めた歯科保健指導	保健所健康増進課	37
		歯っぴーすまいるプロジェクト	東区健康福祉課	38
		親子ヘルシーランチクッキング	東区健康福祉課	39
		にしかん健康プロジェクト	西蒲区健康福祉課	40
		給食だよりのデータ提供	幼保支援課	41
		横越ごはん塾	横越地区公民館	42
		横越地域学 親子で我が家の味噌をつくろう	横越地区公民館	43
		男性料理教室	黒埼地区公民館	44
	(2) 妊産婦や乳幼児に関する食育の推進	妊産婦・乳幼児に関する食生活指導・相談	保健所健康増進課	45
		放っておくだけラクチン時短クッキング	豊栄地区公民館	46
	(3) 在宅時間を活用した食育の推進	SNS等を活用した投稿キャンペーン	食と花の推進課	47

基本的施策と主な取組		事業名	所管課	頁
3. 学校・保育所等における食育の推進	(1) 保育所等における食育の推進	菌ちゃんリサイクル元気野菜づくり	食と花の推進課	49
		食に関する体験活動機会の提供	幼保支援課	50
		保育施設職員を対象とした研修会の開催	幼保支援課	51
		西区保育施設いもジェンヌおやつ月間	西区農政商工課	52
		南区の実りをいただく日	南区健康福祉課	53
	(2) 小・中学校における食育の推進	新潟発 わくわく教育ファーム推進事業	食と花の推進課	54
		学校教育田設置事業	食と花の推進課	55
		こども食育新聞の発行	食と花の推進課	56
		栄養教諭等資質向上のための研修	保健給食課	57
		学校における食に関する指導の充実	保健給食課	58
		教職員を対象とした研修会の開催	保健給食課	59
		研究推進校の指定 「食に関する指導実践事例集」の作成	保健給食課	60
		食育指導者の派遣	保健給食課	61
		北区地場産物を使った食育学校支援事業	北区産業振興課	62
		小学校収穫体験・生産者講話	西区農政商工課	63
	(3) 給食を通じた食育活動の推進	生きた教材となる標準献立の作成	保健給食課	64
		学校給食における地産地消の推進	保健給食課	65
		なないろ野菜給食の提供・なないろ野菜の普及啓発	保健給食課	66
		西区一斉いもジェンヌ給食	西区農政商工課	67
		コシヒカリ給食	西区農政商工課	68
	(4) 高校、大学等における食育の推進	「食と農のわくわくSDGs学習」推進事業	食と花の推進課	69
		研修・ボランティアの受け入れ	食と花の推進課 (食育・花育センター)	70
4. 環境に配慮した食育の推進	(1) 農林漁業体験を通じた食育の推進	農業サポーター推進事業	食と花の推進課	72
		白根高校とアルビレックス新潟によるルレクチエ栽培を通じた農業体験	南区地域総務課	73
	(2) 地産地消の促進	給食を通じた地産地消の推進	食と花の推進課	74
		地産地消推進事業	食と花の推進課	75
	(3) 食文化の継承につながる食育の推進	「にいがたふうど」リーフレット等の制作	食と花の推進課	76
		各種レシピ集の活用	食と花の推進課	77
		新潟市食文化創造都市推進会議	食と花の推進課	78
		若手料理人による特別講義	食と花の推進課	79
		にいがた市民大学短期講座(夏休み親子講座)「親子で学ぶ新潟の郷土食の歴史と魅力」	生涯学習センター	80
		子ども向け文化プログラム体験事業	文化政策課	81
		食育の日の献立の作成	幼保支援課	82
		農村地域生活アドバイザーによる味噌作り教室	西蒲区産業観光課	83
	(4) 食品ロス削減につながる食育の推進	食品ロス削減推進事業	循環社会推進課	84
		環境優良事業者認定制度	循環社会推進課	85
	(5) 環境に配慮した消費の推進	段ボールコンポスト普及啓発事業	循環社会推進課	86
		資源とごみの情報紙「サイチョプレス」発行による市民向け広報	循環社会推進課	87
		学校給食残渣堆肥化事業	循環社会推進課	88
		地域の生ごみ堆肥化事業	循環社会推進課	89
		みなみく「未来」へつなげるSDGs	南区区民生活課	90
5. 食の安全・安心に関する食育の推進	(1) 食品の安全性に関する知識と理解の増進	「食の安全基本方針」の普及と取り組みの推進	保健所食の安全推進課	92
		食肉の安全性についての情報提供	食肉衛生検査所	93
	(2) 食品表示の理解促進	食品表示に係る食の情報展示	食と花の推進課 (食育・花育センター)	94

1 地域における食育の推進

事業名等	「食育の日」協力店と連携した「食育の日（毎月19日）」の普及啓発
------	----------------------------------

基本施策／施策内容	地域における食育の推進 (1) 食育推進運動の展開		
基本目標	☒ 【1】食を楽しむ	☐ 【2】食を大切にする	☐ 【3】食で健康になる
施策の視点・考慮すべき点	☒ 若い世代に対する取組強化	☐ 「新たな日常」への対応	☒ SDGsへの貢献

事業目的・概要	市民の「食育」への理解を深め、実践へとつながるよう「食育の日」協力店と連携し、年3回の「食育の日」を中心とした日に、食育メニューの提供や食育に関する情報提供を実施することで、市民への普及啓発を図る。								
主なターゲット層※1	乳幼児期 (0～5歳)	学童期 (6～11歳)	思春期 (12～19歳)	◎	青年期 (20～39歳)	◎	壮年期 (40～64歳)	◎	高齢期 (65歳～)
事業内容	飲食店、小売店における年3回（6月、10月、3月）の取り組みを行い、食育情報を掲載した「食育の日チラシ」の配布や、のぼり旗の設置を実施することで、市民に向けた普及啓発につなげた。 ・飲食店（登録店舗数15店舗）で主食・主菜・副菜のそろったバランスの良い食育メニュー等の提供を行った。 ・小売店（登録店舗数14社98店舗）で地場農産物の集合販売、レシピ等の配布を行った。								
R6年度実績	事業評価指標	「食育の日」協力店登録店舗数							
	実績値	「飲食店」15店舗、「小売店」14社98店舗							
R6年度事業評価※2	協力店と連携した取り組みを継続実施し、「新潟の農産物」「新潟のお米」◎「地産地消」をテーマとした食育の日チラシを発行し、広報市やHP、TV等を活用した情報発信を行うことで、「食育の日」の周知につなげた。								
R7年度予定	継続（見直し）								
課題・R7方向性	「食育の日協力店」は類似事業である「地産地消推進の店」へ併合することとし、「地産地消推進の店」として食育・地産地消の取り組み、「食育月間」等の周知について、引き続き連携して取り組んでいくこととする。								

【取組の様子】



担当課	食と花の推進課
-----	---------

※1. 【主なターゲット層】 ねらいのターゲット層に事業が届いている場合＝◎、届いていない場合＝△

※2. 【事業評価】 目標を上回って達成できた＝◎、概ね達成できた＝○、達成できなかった＝△

事業名等	ちよいしおプロジェクト「野菜deちよいしおメニュー」の提供									
基本施策／施策内容	地域における食育の推進 / (2) 健康寿命延伸につながる食育の推進									
基本目標	☐ 【1】食を楽しむ			☐ 【2】食を大切にする			☒ 【3】食で健康になる			
施策の視点・考慮すべき点	☐ 若い世代に対する取組強化			☐ 「新たな日常」への対応			☒ SDGsへの貢献			
事業目的・概要	本市は全国と比較し脳血管疾患の死亡率が高い状況にあり、原因の一つとされる食塩の過剰摂取に関する対策を推進するため、飲食店等と連携し、減塩に取り組むきっかけ作りや普及啓発を行う。									
主なターゲット層	☐ 乳幼児期	☐ 学童期	☐ 思春期	☒ 青年期	☒ 壮年期	☐ 高齢期				
事業内容	外食を通じて気軽に減塩に取り組めるきっかけとなるよう、市内のレストランやラーメン店等と協力し、野菜をたっぷり使い、食塩を抑える工夫がされた「野菜deちよいしおメニュー」の提供と減塩に関する普及啓発を行う。									
R6年度実績	事業評価指標	協力店舗数								
	実績値	21店舗								
R6年度事業評価	飲食店やラーメン店において野菜deちよいしおメニューの提供を1月16日～3月7日まで実施。各店舗に減塩情報の卓上メモ等を設置し、市民の減塩意識の向上につながるよう普及啓発を行った。また、SNSやテレビ等を活用し周知・啓発を行った。									
R7年度予定	廃止／休止									
課題・R7方向性	協力店舗の増加や実施期間以外での「野菜deちよいしおメニュー」提供の定着には至らなかったため、当事業の継続は見合わせ、令和7年度は食環境整備の取り組みや他機関との連携について見直し・検討を行う。									
【取組の様子】										
										
担当課	保健所健康増進課									

事業名等	生活習慣病予防等における健康教育の実施
------	---------------------

基本施策／施策内容	地域における食育の推進 / (2) 健康寿命延伸につながる食育の推進		
基本目標	☐ 【1】食を楽しむ	☐ 【2】食を大切にする	☒ 【3】食で健康になる
施策の視点・考慮すべき点	☐ 若い世代に対する取組強化	☐ 「新たな日常」への対応	☐ S D G s への貢献

事業目的・概要	生活習慣の予防その他健康に関する事項について、正しい知識の普及を図ることにより『自らの健康は自らが守る』という認識と自覚を高め、健康の保持増進を図ることを目的とし集団健康教育を行う。										
主なターゲット層	乳幼児期		学童期		思春期		青年期	◎	壮年期	◎	高齢期
事業内容	医師、歯科医師、薬剤師、保健師、管理栄養士、歯科衛生士等を講師とし、一般、歯周疾患、ロコモティブシンドローム、慢性閉塞性肺疾患、病態別、薬など各地域の特性に合わせた内容で対象者やその家族に対し健康教室や各種講習会を行う。										
R6年度実績	事業評価指標		事業回数								
	実績値		事業実施回数：1,107回								
R6年度事業評価	◎ 各教室等を計画的に実施した。また、地域からの依頼については、地域の実態に合わせた内容で講話などを実施した。										
R7年度予定	継続										
課題・R7方向性	継続実施										

【取組の様子】

--

担当課	保健所健康増進課、各区健康福祉課
-----	------------------

事業名等	健康相談の実施
------	---------

基本施策／施策内容	地域における食育の推進  (2) 健康寿命延伸につながる食育の推進		
基本目標	☐ 【1】 食を楽しむ	☐ 【2】 食を大切にする	☒ 【3】 食で健康になる
施策の視点・考慮すべき点	☐ 若い世代に対する取組強化	☐ 「新たな日常」への対応	☐ S D G s への貢献

事業目的・概要	心身の健康に関する個別の相談に応じ必要な指導および助言を行い、家庭における健康管理に資することを目的とし行う。										
主なターゲット層	乳幼児期		学童期		思春期		青年期	◎	壮年期	◎	高齢期
事業内容	対象者の心身の健康に関する事項について、指導・助言を行うことを主な内容とする。										
R6年度実績	事業評価指標		事業回数								
	実績値		事業実施回数：175回								
R6年度事業評価	◎ 各区が開催する健康相談では、一般健康相談のほか特定保健指導対象外の人へのアプローチの場として個別相談を実施した。										
R7年度予定	継続										
課題・R7方向性	継続実施										

【取組の様子】

R6健康相談 チラシ	 
---------------	--

担当課	保健所健康増進課、各区健康福祉課
-----	------------------

事業名等	骨粗しょう症予防相談会の実施									
------	----------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

基本施策／施策内容	地域における食育の推進 / (2) 健康寿命延伸につながる食育の推進									
基本目標	☐ 【1】食を楽しむ	☐ 【2】食を大切にする	☒ 【3】食で健康になる							
施策の視点・考慮すべき点	☐ 若い世代に対する取組強化	☐ 「新たな日常」への対応	☐ S D G s への貢献							

事業目的・概要	骨折、転倒が要介護の要因の1つとなっていることから、骨粗しょう症の予防及び啓発を行うため相談会として開催。									
主なターゲット層	乳幼児期	学童期	思春期	☒ 青年期	☒ 壮年期	☒ 高齢期				
事業内容	骨密度測定の結果をもとに食事・運動等の生活習慣の相談・指導を実施。									
R6年度実績	事業評価指標	事業回数								
	実績値	事業実施回数：54回								
R6年度事業評価	各区において骨粗しょう症予防相談会を開催し、骨密度測定（踵骨の超音波検査）と測定結果に基づく食事や運動の相談・指導を行った。									
R7年度予定	継続									
課題・R7方向性	継続実施									

【取組の様子】

R6骨粗しょう症相談会チラシ




担当課	保健所健康増進課、各区健康福祉課									
-----	------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業名等	学生・企業と連携した食育の推進
------	-----------------

基本施策／施策内容	地域における食育の推進  (3) 各種企業・団体等との連携・協力体制の確立		
基本目標	☒ 【1】食を楽しむ	☒ 【2】食を大切にする	☒ 【3】食で健康になる
施策の視点・考慮すべき点	☒ 若い世代に対する取組強化	☒ 「新たな日常」への対応	☒ SDGsへの貢献

事業目的・概要	食育や健康への意識を高めることを目的に、管理栄養士を目指す栄養学科の学生及び企業と連携して、食の課題が多い若い世代の発想を生かした取組を行う。									
主なターゲット層	乳幼児期	学童期	思春期	◎	青年期	◎	壮年期	高齢期		
事業内容	新潟県立大学・イオンリテール株式会社と連携し、お弁当の考案～販売を実施。 働き世代をターゲットとし、主食・主菜・副菜をそろえ、1日に必要な野菜量（350g）の1/3が摂れるお弁当を考案し、県内イオン等35店舗で期間限定販売した。 販売期間に合わせ、市報、市公式LINE、新潟駅・イオン（新潟亀田インター・西）でのデジタルサイネージなどで広報を行うとともに、市COOKPADにて学生考案レシピを掲載し、情報発信を行った。									
R6年度実績	事業評価指標	弁当販売数（2種類合計）								
	実績値	13,034個								
R6年度事業評価	○ 購入者アンケートにより、学生と連携した取組への関心の高さが伺えた。また、今回のお弁当の野菜量を「普段より多い」と感じた方は、20～40歳代で高く、働き世代への野菜の摂取に関する継続的な普及啓発が必要である。									
R7年度予定	継続									
課題・R7方向性	R6と同様に、新潟県立大学学生・イオンリテール株式会社と連携したお弁当販売を実施予定。									

【取組の様子】






←販売イベントの様子

担当課	食と花の推進課
-----	---------

事業名等	新潟市食育マスターの登録・紹介		
基本施策／施策内容	地域における食育の推進 (4) 地域の力を生かした食育の推進		
基本目標	☒ 【1】 食を楽しむ	☒ 【2】 食を大切にする	☒ 【3】 食で健康になる
施策の視点・考慮すべき点	☒ 若い世代に対する取組強化	☒ 「新たな日常」への対応	☒ SDGsへの貢献
事業目的・概要	食育に関する知識や技術、経験を持つ人材を「新潟市食育マスター」として登録し、食育活動における講師等として紹介を行うことで、食育を地域に密着した取組として推進する。		
主なターゲット層	乳幼児期	◎ 学童期	△ 思春期 ◎ 青年期 壮年期 高齢期
事業内容	「食」や「農」に関する知識や技術、経験を持つ人材を「食育マスター」として登録。保育園や学校、地域における食育活動の場で、講話や調理実習など、内容に合わせて講師・インストラクターとして紹介した。		
R6年度実績	事業評価指標	①登録人数・団体 ②紹介件数	
	実績値	①38人・団体 ②6件	
R6年度事業評価	○ 地域団体等からの依頼を受け、食育マスターを紹介した。 マスター紹介チラシを作成した。		
R7年度予定	継続		
課題・R7方向性	・今後も継続しつつ、類似事業との精査も含めた方向性の検討を行う ・作成したチラシを活用し、マスター制度の周知を行う		

【取組の様子】



「忙しい時でもカンタン
時短レシピ」





担当課	食と花の推進課
-----	---------

事業名等	食生活改善推進委員養成講座及び研修会・勉強会の開催			
基本施策／施策内容	地域における食育の推進 / (4) 地域の力を生かした食育の推進			
基本目標	☐ 【1】食を楽しむ	☐ 【2】食を大切にする	☒ 【3】食で健康になる	
施策の視点・考慮すべき点	☐ 若い世代に対する取組強化	☐ 「新たな日常」への対応	☐ S D G s への貢献	

事業目的・概要	地域における栄養・食生活の改善と食育、健康づくり運動の推進のため、地域に根ざした活動を実施する食生活改善推進委員を養成を行う。また、食生活改善推進委員の資質向上と活動を支援する。							
主なターゲット層	乳幼児期	学童期	思春期	☒ 青年期	☒ 壮年期	☒ 高齢期		
事業内容	食生活改善推進委員の養成講座として健康栄養セミナーを3区で各1コース(1コース6回)開催。 また、食生活改善推進委員の資質向上を図るため、全体研修会や各区での地域単位の勉強会を実施。							
R6年度実績	事業評価指標	- 健康栄養セミナー開催数、修了者数 - 全体研修会開催数 - 各区勉強会開催数						
	実績値	- 健康栄養セミナー：開催数18回、修了33名 - 全体研修会：開催数2回 - 各区勉強会：開催数56回						
R6年度事業評価	健康栄養セミナーを東区・中央区・西区の3会場で実施し、新規入会へとつなげた。また、食生活改善推進委員の会員を対象に、全体研修会や各区での地域単位の勉強会を実施し、資質向上を図った。							
R7年度予定	継続							
課題・R7方向性	継続実施							

【取組の様子】




担当課	保健所健康増進課
-----	----------

事業名等	健康増進普及講習会の実施									
------	--------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

基本施策／施策内容	地域における食育の推進 / (4) 地域の力を生かした食育の推進									
基本目標	☐ 【1】食を楽しむ		☐ 【2】食を大切にする		☒ 【3】食で健康になる					
施策の視点・考慮すべき点	☐ 若い世代に対する取組強化		☐ 「新たな日常」への対応		☒ S D G s への貢献					

事業目的・概要	健全な食生活に関する知識を普及啓発することにより、生活習慣病の一次予防を行うことを目的とする。食生活改善推進委員と連携し、市民に身近な会場で講習会等を実施する。									
主なターゲット層	乳幼児期	学童期	思春期	☒ 青年期	☒ 壮年期	☒ 高齢期				
事業内容	食生活改善推進委員と連携し、減塩など地域の特性やニーズに応じたテーマに関する講話及び調理実習や調理デモ・試食を取り入れた講習会を開催する。									
R6年度実績	事業評価指標	開催数								
	実績値	64回								
R6年度事業評価	☒ 食生活改善推進委員と連携して、減塩など地域の特性やニーズに応じたテーマで講話、調理実習または調理デモ・試食を取り入れた講習会を開催した。									
R7年度予定	継続									
課題・R7方向性	令和7年度は減塩対策を強化するため、各区での講習会に「ちょいしお（減塩）」の講話を入れて全市的に取り組む予定。									

【取組の様子】

担当課	保健所健康増進課
-----	----------

事業名等	おやこ収穫体験
------	---------

基本施策／施策内容	地域における食育の推進 (4) 地域の力を生かした食育の推進		
基本目標	☒ 【1】食を楽しむ	☒ 【2】食を大切にする	☐ 【3】食で健康になる
施策の視点・考慮すべき点	☒ 若い世代に対する取組強化	☐ 『新たな日常』への対応	☐ SDGs への貢献

事業目的・概要	農作物の収穫を通し、生産者と交流し、地場産の農産物への理解を深めることを目的に実施。									
主なターゲット層	◎ 乳幼児期	◎ 学童期		思春期	◎ 青年期	◎ 壮年期				高齢期
事業内容	品目		実施日			参加数				
	・ すいか		令和6年	6月15日	(土)	63組214人				
	・ 人参		令和6年	7月13日	(土)	77組248人				
	・ くろさき茶豆		令和6年	8月24日	(土)	38組133人				
	・ メロン		令和6年	9月21日	(土)	62組182人				
	・ さつまいも		令和6年	10月 6日	(日)	78組261人				
	・ ル レクチエ		令和6年	10月19日	(土)	52組171人				
	・ 大根		令和6年	11月16日	(土)	62組204人				
	・ ブロッコリー		令和6年	11月24日	(日)	75組240人				
・ かぶ		令和7年	2月22日	(土)	59組181人					
R6年度実績	事業評価指標		参加者アンケート満足度							
	実績値		98.40%							
R6年度事業評価	アンケート満足度も高く、自由記載も「食についての大事さが子に ○ 伝わる」「育てている様子も分かり、楽しい」などの意見も見られた。									
R7年度予定	継続									
課題・R7方向性	引き続き西区の生産者と連携して実施する。									

【取組の様子】



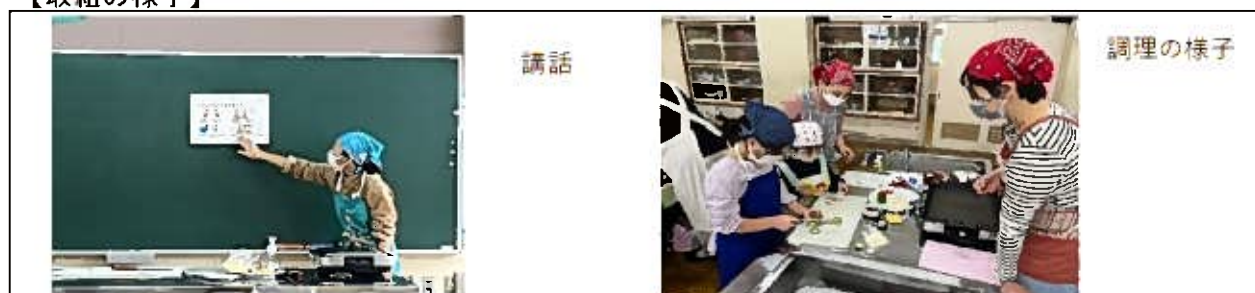
担当課	西区農政商工課
-----	---------

事業名等	西地区公民館・コミュニティ佐潟主催事業 親子料理教室「親子クッキング教室」
------	--

基本施策／施策内容	地域における食育の推進 ／ (4) 地域の力を生かした食育の推進		
基本目標	☒ 【1】食を楽しむ	☐ 【2】食を大切にする	☐ 【3】食で健康になる
施策の視点・考慮すべき点	☒ 若い世代に対する取組強化	☐ 「新たな日常」への対応	☐ SDGsへの貢献

事業目的・概要	様々な料理体験を通じて、児童の豊かな人間性・社会性を育む。									
主なターゲット層	乳幼児期	◎	学童期		思春期		青年期		壮年期	高齢期
事業内容	事業開催日：令和6年11月16日（全1回） 対象：赤塚小学校、木山小学校の1～6年生の親子 内容：「家にある材料で簡単かわいいクリスマスメニュー」 ・手軽に揃えられる材料を用いてクリスマスメニューを作る。 ・講師より「個食」「孤食」についてお話いただいた。									
R6年度実績	事業評価指標		・開催回数 ・参加人数 ・アンケートによる受講者満足度							
	実績値		・全1回 ・20人（定員36人 応募20人） ・100%							
R6年度事業評価	◎ 個食・孤食の話をする事で家庭での食事の大切さを学び、親子及び他小学校の児童同士で協力して作業を行うことで事業目的を達成することができたと考える。募集定員には至らなかったが、アンケートの受講者満足度100%									
R7年度予定	継続									
課題・R7方向性	当講座のテーマは低学年の児童にとっても家庭科の入門編として良い体験となることから、小学校としても来年度以降も継続して同テーマでの開催を希望。過去の講座との差別化を図りつつも充実した内容になるよう検討が必要。									

【取組の様子】



担当課	西地区公民館
-----	--------

事業名等	桃山校区コミュニティ協議会連携事業「楽しく作ろう親子料理教室」
------	---------------------------------

基本施策／施策内容	地域における食育の推進 / (4) 地域の力を生かした食育の推進		
基本目標	☒ 【1】食を楽しむ	☐ 【2】食を大切にする	☐ 【3】食で健康になる
施策の視点・考慮すべき点	☒ 若い世代に対する取組強化	☐ 「新たな日常」への対応	☐ SDGsへの貢献

事業目的・概要	・子どもの基本的生活習慣の形成・地域、家庭の教育力向上・地域住民が連携して実施することによる地域の活力づくり、組織づくり											
主なターゲット層		乳幼児期	◎	学童期		思春期	◎	青年期	◎	壮年期		高齢期
事業内容	会場：桃山小学校、主催：桃山校区コミュニティ協議会、講師：食生活改善推進員、対象：小学生の親子、メニュー：バッククッキング（防災食）鶏ごぼうの炊き込みごはん、野菜スープ、じゃがりこサラダ											
R6年度実績	事業評価指標		①参加者数 ②参加者の満足度									
	実績値		①親子13組（27人） ②満足度100%									
R6年度事業評価	能登半島地震の影響により、防災食への意識が高まり、メニューは◎ バッククッキングとした。親子で防災について考えながら楽しく料理を学べて、満足度は100%であった。											
R7年度予定	継続（見直し）											
課題・R7方向性	「親子料理教室」は何年か継続して開催しているので、公民館と連携して行う事業としては、新たな地域課題の事業へ見直しを行う。「親子料理教室」は今後は引継ぎを行いながら、コミ協独自で継続して開催する。											

【取組の様子】



担当課	中地区公民館
-----	--------

事業名等	子ども体験教室「キッズパティシエ」
------	-------------------

基本施策／施策内容	地域における食育の推進 / (4) 地域の力を生かした食育の推進		
基本目標	☒ 【1】 食を楽しむ	☐ 【2】 食を大切にする	☐ 【3】 食で健康になる
施策の視点・考慮すべき点	☒ 若い世代に対する取組強化	☐ 「新たな日常」への対応	☐ S D G s への貢献

事業目的・概要	地元の老舗和菓子職人の指導によるお菓子作りを体験する。									
主なターゲット層	乳幼児期	◎	学童期		思春期		青年期		壮年期	高齢期
事業内容	「たまごを使わないd e りんごパイ」 りんごパイをたまごを使わずに生地から作る									
R6年度実績	事業評価指標		●参加人数 ●参加者のアンケート回答結果より次の2項目 ・満足度(参加してよかったか) ・気づき(新しく知ったこと気づいたことはあったか)							
	実績値		参加人数 20人 満足度 100% 気づき 85%							
R6年度事業評価	○ 学校も学年も異なる同士で協力し合い楽しみながら高い関心をもってお菓子作りを体験することができた。家庭で簡単に用意できる材料と道具を使用し、講座終了後に家庭で再挑戦しやすいものにできた。									
R7年度予定										
課題・R7方向性	対象者が子どもの場合、作業に大人以上の時間がかかるため、内容と時間の設定には入念な確認と対策が必要。									

【取組の様子】



担当課	黒埼地区公民館
-----	---------

事業名等	働き盛り世代へのメルマガによる健康情報の配信
------	------------------------

基本施策／施策内容	地域における食育の推進 (5) 職場における食育の推進		
基本目標	☐ 【1】食を楽しむ	☐ 【2】食を大切にする	☒ 【3】食で健康になる
施策の視点・考慮すべき点	☐ 若い世代に対する取組強化	☐ 「新たな日常」への対応	☐ S D G s への貢献

事業目的・概要	働き盛り世代への普及啓発とし、ヘルスパートナーに配信するメルマガを活用して減塩や健康づくりに関する情報提供を行うことにより、生活習慣病予防を図る。										
主なターゲット層	乳幼児期		学童期		思春期	◎	青年期	◎	壮年期		高齢期
事業内容	『にいがたヘルスパートナー』の登録事業所を対象に、毎月メール配信する『ヘルスパートナー通信』及び年4回発行するメルマガ『ヘルスナビ』において、健康づくりや生活習慣病予防に関する情報発信により普及啓発を実施。										
R6年度実績	事業評価指標		情報配信回数								
	実績値		①ヘルスパートナー通信：9回 ②ヘルスナビ：4回								
R6年度事業評価	予定どおり情報配信を実施。また、ヘルスパートナー通信では、 ○ R6.7月より「ちょいしおメモ」として減塩のコツやレシピ紹介を毎回配信した。										
R7年度予定	継続										
課題・R7方向性	継続実施										

【取組の様子】



担当課	保健所健康増進課
-----	----------

事業名等	給食施設指導会の開催									
基本施策／施策内容	地域における食育の推進					(5) 職場における食育の推進				
基本目標	☐ 【1】 食を楽しむ			☐ 【2】 食を大切にする			☒ 【3】 食で健康になる			
施策の視点・考慮すべき点	☒ 若い世代に対する取組強化			☐ 「新たな日常」への対応			☐ SDGsへの貢献			
事業目的・概要	給食施設に携わる関係者を対象に栄養管理に関する講習会を実施し、給食を通じた健康づくり及び健全な食事提供を図るための支援をする。									
主なターゲット層	☐ 乳幼児期	☐ 学童期	☐ 思春期	☒ 青年期	☒ 壮年期	☒ 高齢期				
事業内容	給食施設の管理者、管理栄養士、栄養士、調理師、調理従事者等を対象に、新潟シティチャンネル（YouTube）による講習会を期間限定で開催 【講演内容】 食物アレルギーの基礎知識と事故予防・緊急時対応に係る組織的対応									
R6年度実績	事業評価指標		参加申込施設数							
	実績値		申込数184施設							
R6年度事業評価	参加方法をオンライン受講にしたことで、多くの施設から参加いただき、また参加者の理解度も9割を超えた。今後も、参加しやすい受講方法を検討し実施する。									
R7年度予定	継続									
課題・R7方向性	- 引き続き、開催方法を受講申込者のみ新潟シティチャンネル（YouTube）で限定公開とした指導会を開催する。 - 講演内容はアンケート結果も参考に、参加者の意向に沿ったテーマを選定していく。									
【取組の様子】										
新潟市健康・安全推進局食生活課 講演 「食物アレルギーの基礎知識と事故予防・緊急時対応に係る組織的対応」 講師 昭和大学医学部小児科学講座 教授 今井 孝成 氏										
担当課	保健所食の安全推進課									

事業名等	明生園 「旬の食材を用いた行事メニューの提供」
------	-------------------------

基本施策／施策内容	地域における食育の推進 (5) 職場における食育の推進		
基本目標	☒ 【1】食を楽しむ	☒ 【2】食を大切にする	☒ 【3】食で健康になる
施策の視点・考慮すべき点	☐ 若い世代に対する取組強化	☐ 「新たな日常」への対応	☒ SDGsへの貢献

事業目的・概要	旬の食材を使った月の取り組みや行事メニューを活かし、季節を感じ喜んでもらう。											
主なターゲット層		乳幼児期		学童期		思春期	◎	青年期	◎	壮年期		高齢期
事業内容	①食育の日メニューの提供。 ②季節の七夕や節分などの園内イベントと合わせて、旬の食材を使った給食提供など。 ③冬場の旬の食材を使った温かいメニュー提供など。											
R6年度実績	事業評価指標		①②③検食・給食日誌									
	実績値		①食育の日（19日）メニュー：9回 ②七夕・節分メニュー、温かいメニューなど：7回									
R6年度事業評価	○ 旬の食材を使った行事メニューは、彩りがいい・美味しかったなど好評なご意見が多数です。											
R7年度予定	継続											
課題・R7方向性	R7年度も季節に合わせ、旬の食材を使った給食提供を予定していますが、食材料費などの高騰についても考慮が必要だと思います。											

【取組の様子】



担当課	障がい福祉課 新潟市立明生園
-----	----------------

事業名等	主催料理教室の開催
------	-----------

基本施策／施策内容	地域における食育の推進 / (6) 拠点施設における食育の推進		
基本目標	☒ 【1】食を楽しむ	☒ 【2】食を大切にする	☒ 【3】食で健康になる
施策の視点・考慮すべき点	☒ 若い世代に対する取組強化	☐ 「新たな日常」への対応	☒ SDGs への貢献

事業目的・概要	・新潟で生産される米、野菜、果物、魚など本市の特色である新鮮で多様な食材を組み合わせた調理体験を通じて、食育を推進する。 ・「食育」「食文化」「食品ロス」「料理方法・技術」などについて、安全で楽しく学べる料理教室を開催する。 ・親子・家族・食文化に関心を持っている方・調理法を学びたい方など、多様な対象者のニーズにこたえる料理教室を開催する。											
主なターゲット層	◎	乳幼児期	◎	学童期	△	思春期	△	青年期	◎	壮年期	◎	高齢期
事業内容	多種のテーマによる料理教室を開催。県立大学生考案による4月「手作り米麺でラオス料理」や、にいがた製菓・調理専門学校えぶろん8月「親子で楽しいパン作り」、新潟調理師専門学校学生による11月「皮から水餃子を作ろう」など大学・専門学校と連携し、昨年に引き続き教室を実施した。 栄養サポートグループの離乳食教室と若者向け教室を実施。 初心者向け男性教室も実施した。											
R6年度実績	事業評価指標		実施回数及び参加人数									
	実績値		実施回数：68回、参加人数：1,554人									
R6年度事業評価	◎ 実施回数も目標61回から増加となる、昨年から継続した教室も実施でき、離乳食教室や男性向け教室も実施できたことは今後の教室開催に繋がる事業となる。											
R7年度予定	継続											
課題・R7方向性	・新規として米粉を使用したお菓子教室を実施する。 ・ABCクッキングスタジオとの連携にてポケモンレッスンの教室を実施する。 ・管理栄養士の方による若者向け教室を実施する。 ・男性向け教室も参加者から好評を得ており、継続していく。											

【取組の様子】



担当課	食と花の推進課（食育・花育センター）
-----	--------------------

事業名等	食育ミニ体験の実施
------	-----------

基本施策／施策内容	地域における食育の推進 (6) 拠点施設における食育の推進		
基本目標	☒ 【1】食を楽しむ	☒ 【2】食を大切にする	☒ 【3】食で健康になる
施策の視点・考慮すべき点	☒ 若い世代に対する取組強化	☐ 「新たな日常」への対応	☒ SDGsへの貢献

事業目的・概要	・「日本型食生活」の推進と新潟の多種多様な食材・食文化・健康づくりをテーマに、食育推進の入口として食育ミニ体験を実施。 ・「食」を楽しむことをきっかけに、自発的に「食」への関心を高めていけるような取り組みを推進。						
主なターゲット層	◎ 乳幼児期	◎ 学童期	思春期	青年期	◎ 壮年期	高齢期	
事業内容	毎週土曜または日曜、平日（長期休暇）に予約不要で気軽に参加できる、食育ものづくりや調理体験を実施した。下記を注力した。 ①いくとびあ食花内施設（キラキラマーケット、動物ふれあいセンター等）と連携した食育体験の実施。 ②アグリパークと連携した食品ロス削減、健康づくりをテーマにした食育体験の実施。 ③市内の大学と連携した食品ロス削減、健康づくりをテーマにした食育体験の実施。						
R6年度実績	事業評価指標	実施回数及び体験者数					
	実績値	計147回/年、4,562人 ①16回/年、412人 ②10回/年、262人 ③10回/年、856人					
R6年度事業評価	◎ 工作や調理体験を通して、「食」への興味や関心を高めていけるような親子で楽しめるワークショップを土日だけでなく長期休暇の平日に開催した。短時間で気軽に参加できるということもあり、年齢を問わず多くの方に体験していただけた。						
R7年度予定	継続						
課題・R7方向性	WEB予約システムを活用し、予約枠を設け、未就学児を連れた家族が安心して確実に体験できるようにしていきたい。						

【取組の様子】



担当課	食と花の推進課（食育・花育センター）
-----	--------------------

事業名等	団体体験プログラムの実施
------	--------------

基本施策／施策内容	地域における食育の推進 / (6) 拠点施設における食育の推進		
基本目標	☒ 【1】 食を楽しむ	☒ 【2】 食を大切にする	☒ 【3】 食で健康になる
施策の視点・考慮すべき点	☒ 若い世代に対する取組強化	☐ 「新たな日常」への対応	☒ SDGsへの貢献

事業目的・概要	・新潟の食と花をメインテーマに、多種多様な体験を通して学ぶことにより、心と身体の健康や豊かな人間性、生きる力を育む。 ・園児から地域団体と幅広い年代に対応したプログラムを年間を通して実施する。											
主なターゲット層	◎	乳幼児期	◎	学童期		思春期		青年期		壮年期		高齢期
事業内容	・小学校、幼稚園、保育園・こども園を対象に「食育・花育はかせになろう」「ぼっぼ焼き」「手作りアイスクリーム」などのプログラムを実施した。 ・希望する園や学校に出向いて行う「出張プログラム事業」も2団体から要望があり実施した。											
R6年度実績	事業評価指標		団体数、体験人数									
	実績値		122団体/年、3,368人									
R6年度事業評価	◎ 調理体験の利用が増加傾向にあり、59団体（48%）だった。また、長期休暇に福祉施設に繰り返し利用していただけた。											
R7年度予定	継続											
課題・R7方向性	プログラム集の改訂に合わせ対象年齢を一律3歳以上にした。幅広い年代に利用していただけるようにしていく。											

【取組の様子】



担当課	食と花の推進課（食育・花育センター）
-----	--------------------

事業名等	食の情報展示		
------	--------	--	--

基本施策／施策内容	地域における食育の推進 / (6) 拠点施設における食育の推進		
基本目標	☒ 【1】 食を楽しむ	☒ 【2】 食を大切にする	☒ 【3】 食で健康になる
施策の視点・考慮すべき点	☒ 若い世代に対する取組強化	☐ 「新たな日常」への対応	☒ S D G s への貢献

事業目的・概要	来館者が体験的に学べる展示物や体験コーナーの設置と館内ガイドにより実践に役立つ継続的な情報発信を行う。						
主なターゲット層	☒ 乳幼児期	☒ 学童期	☒ 思春期	☒ 青年期	☒ 壮年期	☒ 高齢期	
事業内容	日本型食生活、朝ごはん、郷土料理、地産地消、食品ロスをテーマに来館者が体験的に学べる展示物を作成、設置し実践に役立つ情報の提供をしている。 ・主食、主菜、副菜について楽しく学べる館内クイズラリーを設置。 ・「おやつに含まれている砂糖、油、食塩の量」をテーマとした食品サンプルを使用した展示や大学生と連携した体験展示を企画、作成し設置。 ・食育の活動発表の場として展示スペースの無料貸し出し開始。 ・希望した団体向けに館内ガイド（20分）を実施。						
R6年度実績	事業評価指標	クイズラリー利用者数 展示コーナー貸出件数 ガイド及び自由見学の件数、人数					
	実績値	クイズラリー：2,971人、展示コーナー貸出件数：5件 ガイド：22件/年、611人（小学校311人、一般261人、保育園39人） 自由見学：173件/年、5,897人					
R6年度事業評価	☒ 学生から実践に役立つ体験展示を考案、作成してもらうことで来館者が体験的に学べる展示が行えた。また、子どもが楽しみながら健康づくりに役立つ情報を学べる体験コーナーを設置し、大勢の方に利用してもらえた。						
R7年度予定	継続						
課題・R7方向性	・分かりやすく、見やすい、自発的に楽しみながら学べる体験展示になるようさらに創意工夫していく。 ・館内ガイドは、学生考案の体験展示を有効活用し、実践に役立つ情報発信をしていく。						

【取組の様子】





担当課	食と花の推進課（食育・花育センター）
-----	--------------------

事業名等	アグリパーク体験事業
------	------------

基本施策／施策内容	地域における食育の推進 (6) 拠点施設における食育の推進		
基本目標	☒ 【1】食を楽しむ	☒ 【2】食を大切にする	☐ 【3】食で健康になる
施策の視点・考慮すべき点	☒ 若い世代に対する取組強化	☒ 『新たな日常』への対応	☒ SDGsへの貢献

事業目的・概要	農業に触れ、親しみ、学ぶ場を提供する教育ファームとして、児童・生徒や一般の方に農業の楽しさや大切さを学んでいただくとともに、生産者に対して食品加工に係る支援を実施することで農業の振興に寄与する									
主なターゲット層	◎ 乳幼児期	◎ 学童期	◎ 思春期	◎ 青年期	◎ 壮年期		高齢期			
事業内容	石窯を使ったピザ作り、専門講師を迎えて地域の特色を活かした調理講座、野菜の収穫体験、牛の搾乳体験のほか、食と農に関わるイベントなどを開催した。									
R6年度実績	事業評価指標		①ASP受講校／受講者数 ②一般体験参加者数 ③食品加工センター利用者数							
	実績値		①ASP来園校／人数 181校／8,014人 ②一般体験参加者数 19,169人 ③食品加工センター利用者数 1,070人							
R6年度事業評価	教育ファーム、一般体験等施設利用者は前年比104%であり、アンケート調査による満足度は高かった。食品加工では新規製品11品目、継続生産36品目で利用者の満足度は高かった。									
R7年度予定	継続									
課題・R7方向性	①アグリパークの特色を活かしたうえで、食糧生産・食育の大切さを体験する場を提供する。②地元農産物を使用した商品開発のため関係機関と連携を図るとともに、米粉加工技術の展開について可能性を探るなど6次産業化支援に努める。									

【取組の様子】



担当課	食と花の推進課（アグリパーク）
-----	-----------------

事業名等	健康レシピ等の掲載
------	-----------

基本施策／施策内容	地域における食育の推進 （7）あらゆる広域媒体を活用した食育の普及啓発、情報の発信		
基本目標	☐ 【1】食を楽しむ	☐ 【2】食を大切にする	☒ 【3】食で健康になる
施策の視点・考慮すべき点	☐ 若い世代に対する取組強化	☐ 「新たな日常」への対応	☐ S D G s への貢献

事業目的・概要	各種媒体を活用し、減塩や生活習慣病予防についての情報提供をすることにより、家庭での実践や料理づくりの行動につなげる。										
主なターゲット層	乳幼児期		学童期		思春期	◎	青年期	◎	壮年期	◎	高齢期
事業内容	①市報にいがた別冊情報ひろばに減塩対策として「ちょいしおレシピ」の掲載（月1回）、また働く世代へ「ちょいしおメモ」（月1回）として情報発信を行った。 ②クックパッドやホームページをとおして健康をテーマにしたレシピを掲載。										
R6年度実績	事業評価指標		①情報配信回数 ②レシピ掲載回数								
	実績値		①ちょいしおレシピ12回、ちょいしおメモ9回 ②レシピ掲載9回								
R6年度事業評価	○ 予定どおり情報配信、レシピ掲載を行った。										
R7年度予定	継続										
課題・R7方向性	継続実施										

【取組の様子】



担当課	保健所健康増進課、各区健康福祉課
-----	------------------

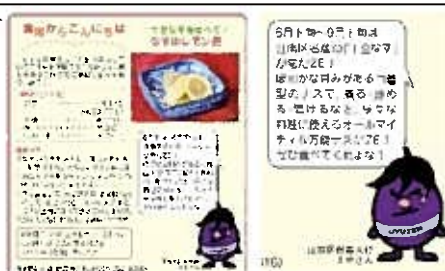
事業名等	食生活改善推進委員作成のレシピの掲載
------	--------------------

基本施策／施策内容	地域における食育の推進 （7）あらゆる広域媒体を活用した食育の普及啓発、情報の発信		
基本目標	☒ 【1】食を楽しむ	☒ 【2】食を大切にする	☒ 【3】食で健康になる
施策の視点・考慮すべき点	☐ 若い世代に対する取組強化	☒ 「新たな日常」への対応	☒ SDGs への貢献

事業目的・概要	食生活の改善および地域の特産物の認知度拡大を目的に、食生活改善推進委員が作成したレシピを区役所だよりに掲載する。						
主なターゲット層	◎ 乳幼児期	◎ 学童期	◎ 思春期	◎ 青年期	◎ 壮年期	◎ 高齢期	
事業内容	○年5回、江南区役所だよりに、食生活改善推進委員が作成したレシピを掲載 ○レシピには区内特産物を使用することとし、その旬や特徴などを併せて紹介						
R6年度実績	事業評価指標	掲載回数：5回以上					
	実績値	掲載回数：5回					
R6年度事業評価	区内の5つの代表的な農産物を使用したレシピを掲載することで、 ◎ 健康に配慮した料理による食生活改善の推進だけでなく、特産物の魅力発信、認知度拡大につなげることができた。						
R7年度予定	継続						
課題・R7方向性	引き続き、江南区の特産物を使用したレシピを区だよりに掲載し、知名度アップや消費拡大に繋げたい。						

【取組の様子】

参考：令和6年6月16日号



担当課	江南区地域総務課
-----	----------

2 家庭における食育の推進

事業名等	アルビde食育・健康づくり
------	---------------

基本施策／施策内容	家庭における食育の推進 (1) 望ましい食習慣や知識の習得		
基本目標	☒ 【1】 食を楽しむ	☒ 【2】 食を大切にする	☒ 【3】 食で健康になる
施策の視点・考慮すべき点	☒ 若い世代に対する取組強化	☒ 『新たな日常』への対応	☒ SDGsへの貢献

事業目的・概要	若い世代の食や健康に対する興味関心の向上を図るため、アルビレックス新潟と連携し、食育・健康づくりに関する取組みや、情報発信を行う。											
主なターゲット層		乳幼児期	◎	学童期	◎	思春期	◎	青年期	◎	壮年期	◎	高齢期
事業内容	「朝食」と「睡眠」をテーマに保健給食課と連携し、下記を実施。 ①動画作成：選手を起用し、楽しく朝食や睡眠の大切さを伝える ②小中学生向け教材作成：普段の生活を振り返りながら学べる教材動画・パンフレットを制作 ③アルビde給食：選手が食事をしている「オレンジカフェ」のメニューを給食用にアレンジ、市内小中学校で提供 ④選手による講演会：目標を成し遂げるために、食生活をはじめとして普段の生活習慣で大切にしていることを講演いただいた											
R6年度実績	事業評価指標		①動画作成数／視聴回数 ④実施校									
	実績値		①3本／32,433回 ④2校（内野小学校、大形中学校）									
R6年度事業評価	アルビ側からも発信してもらうことで、より多くの人に情報を届けることができた。今後もデジタルツールを活用しながら、若い世代の行動変容につながる取組みや情報発信を実施する。											
R7年度予定	継続											
課題・R7方向性	「朝食」をテーマにしつつ、「自炊」の観点を加えた動画を作成予定。アルビ農園を設け、選手による農作業及び採れた野菜を使った調理実習を通して、自分で作ってしっかり食えることを啓発する。調理実習時は、高校生などの出演も想定し、若い世代への効果的な情報発信を行っていく。											

【取組の様子】





担当課	食と花の推進課、保健給食課
-----	---------------

事業名等	給食を通じた家庭への食知識の普及啓発									
------	--------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

基本施策／施策内容	家庭における食育の推進 (1) 望ましい食習慣や知識の習得									
基本目標	☐ 【1】 食を楽しむ		☐ 【2】 食を大切にする		☒ 【3】 食で健康になる					
施策の視点・考慮すべき点	☒ 若い世代に対する取組強化		☐ 『新たな日常』への対応		☐ SDGsへの貢献					

事業目的・概要	給食だよりや保護者試食会を通して、食に関する知識や地産地消の取組等を周知することで、家庭・保護者への普及啓発を図る。									
主なターゲット層	乳幼児期	◎	学童期		思春期	◎	青年期	◎	壮年期	高齢期
事業内容	各学校・学校センターにおいて給食だよりや食育だより等を発行し、家庭・保護者に対して食に関する知識などの啓発を図った。									
R6年度実績	事業評価指標									
	実績値									
R6年度事業評価	食に関する指導について、各学校が授業内容や取組について周知することを通して、保護者の興味関心を高め、連携した取組が実施できるようにした。									
R7年度予定	継続									
課題・R7方向性	今後も継続していく。保護者試食会などを通じた啓発活動も行っていく。									

【取組の様子】

担当課	保健給食課
-----	-------

事業名等	「よく噛むこと」等の重要性を含めた歯科保健指導
------	-------------------------

基本施策／施策内容	家庭における食育の推進 (1) 望ましい食習慣や知識の習得		
基本目標	☐ 【1】食を楽しむ	☐ 【2】食を大切にする	☒ 【3】食で健康になる
施策の視点・考慮すべき点	☐ 若い世代に対する取組強化	☐ 「新たな日常」への対応	☐ SDGsへの貢献

事業目的・概要	乳幼児歯科健診や市政さわやかトーク宅配便等の歯科保健事業において、よく噛むことの効果や誤嚥・窒息防止のため食事時の正しい姿勢等を啓発する。										
主なターゲット層	◎ 乳幼児期		学童期		思春期	◎	青年期	◎	壮年期	◎	高齢期
事業内容	各種歯科保健事業において、よく噛むことや食事時の正しい姿勢等の重要性を含む内容で歯科保健指導を実施。 ①2歳児歯科健診において冊子「幼児食と歯のおはなし」を説明、配付 ②市政さわやかトーク宅配便「知っていそうで知らない！？口の中」										
R6年度実績	事業評価指標		①受診者数 ②受講者数								
	実績値		①2歳児歯科健診受診者数（見込み）：3,058人 ②市政さわやかトーク宅配便「知っていそうで知らない！？口の中」受講者数（見込み）：220人								
R6年度事業評価	◎ 口腔機能の発達やオーラルフレイルの観点も含め、歯科保健の正しい知識を説明する機会となった。										
R7年度予定	継続										
課題・R7方向性	継続実施する。										

【取組の様子】

2歳児歯科健診で配付している冊子



担当課	保健所健康増進課
-----	----------

事業名等	歯っぴーすまいるプロジェクト			
------	----------------	--	--	--

基本施策／施策内容	家庭における食育の推進 (1) 望ましい食習慣や知識の習得		
基本目標	☐ 【1】食を楽しむ	☐ 【2】食を大切にする	☒ 【3】食で健康になる
施策の視点・考慮すべき点	☒ 若い世代に対する取組強化	☐ 「新たな日常」への対応	☐ SDGsへの貢献

事業目的・概要	東区の歯科保健の健康課題であるこどものむし歯罹患状況の改善に向け、令和2年度より、こども食堂、認可保育園・認定こども園・幼稚園、放課後児童クラブ等と連携し、歯と食育の健康相談会・むし歯予防教室を開催し、むし歯予防の啓発とともに、食と健康づくりに関する啓発、個別相談を実施。						
主なターゲット層	☒ 乳幼児期	☒ 学童期	☐ 思春期	☒ 青年期	☒ 壮年期	☐ 高齢期	
事業内容	・こども食堂における歯と食育の啓発・健康相談会 ・保育園、認定こども園、幼稚園等巡回むし歯予防教室 ・放課後児童クラブにおけるむし歯予防教室、歯っぴーすまいるチャレンジ ・歯とお口の健康づくり啓発事業						
R6年度実績	事業評価指標	①12歳児一人あたり平均むし歯本数 ②こども食堂における歯と食育の健康相談会実施回数 ③保育園・幼稚園・放課後児童クラブでのむし歯予防教室実施回数 ④歯みがきチャレンジカードの提出数					
	実績値	①0.32本 (R5) ②7回 ③40回 ④608枚					
R6年度事業評価	歯みがきの大切さに対する意識づけができ、経年的にはむし歯本数は減少した（令和5年度市目標値達成）が、事業参加者のアンケート結果より、仕上げ磨きに課題がある等、児、保護者ともに適切な歯科保健行動が未定着である可能性がある。また、乳幼児期の多数むし歯や未処置のむし歯がある12歳児が一定数みられることから、引き続き関係機関と連携して取り組んでいく必要がある。						
R7年度予定	継続						
課題・R7方向性	引き続き児、保護者を対象に適切な歯科保健行動がとれるよう、こども食堂、保育園、幼稚園、放課後児童クラブ等と連携した歯と食育の健康づくりを行う。また、庁内関係課や区内歯科医院、小・中学校等と情報交換し、効果的な取り組みができるよう連携していく。						

【取組の様子】

担当課	東区健康福祉課健康増進係
-----	--------------

事業名等	親子ヘルシーランチクッキング
------	----------------

基本施策／施策内容	家庭における食育の推進 (1) 望ましい食習慣や知識の習得		
基本目標	☐ 【1】食を楽しむ	☐ 【2】食を大切にする	☒ 【3】食で健康になる
施策の視点・考慮すべき点	☒ 若い世代に対する取組強化	☐ 「新たな日常」への対応	☐ SDGsへの貢献

事業目的・概要	・基本的な生活習慣獲得層である小学生への健康づくりの意識向上を図る機会とする。調理体験や栄養講話を通して作る楽しみの中から栄養バランスを学び、小学生自身および家族が健康について考えるきっかけを作ることを目的とする。 ・新潟県立大学人間生活学部健康栄養学科と連携し、学生が中心となり、調理体験および栄養講話の内容を企画・実施する。										
主なターゲット層	乳幼児期	◎	学童期		思春期	◎	青年期	◎	壮年期		高齢期
事業内容	・こども…調理実習（バッククッキング） ・保護者…朝食に関する健康講話（学生参加型のグループワーク）、調理実習の様子を見学 ・調理したものの喫食										
R6年度実績	事業評価指標		終了後アンケートより ①主食・主菜・副菜を揃えた食事と3食取ろうと思う ②朝食を毎日食べようと思う								
	実績値		①そう思う、ややそう思う 5人/6人中 (84%) ②そう思う、ややそう思う 6人/6人中 (100%)								
R6年度事業評価	・調理実習することで参加者の満足度も高かった。 ・レシピ集に朝食に関するコラムを掲載したが健康教育をする時間が設けられなかった。 ◎ 保護者向けの講話は具体的な内容で参加者の満足度も高く、学生が参加することによりグループワークも活発的に行われていた。										
R7年度予定	継続										
課題・R7方向性	・継続して実施予定。 ・子どもへの健康教育の時間を設け、クイズ等を取り入れながら簡単にポイントを伝えられるよう検討する。 ・保護者には、減塩をテーマに、うま味を引き出す調理法について講話を行う。										

【取組の様子】



担当課	東区健康福祉課健康増進係
-----	--------------

事業名等	にしかん健康プロジェクト		
------	--------------	--	--

基本施策／施策内容	家庭における食育の推進 (1) 望ましい食習慣や知識の習得		
基本目標	☐ 【1】食を楽しむ	☐ 【2】食を大切にする	☒ 【3】食で健康になる
施策の視点・考慮すべき点	☒ 若い世代に対する取組強化	☐ 「新たな日常」への対応	☐ SDGsへの貢献

事業目的・概要	健康寿命延伸に向けて、西蒲区の地域特色を反映し作成したパンフレット（栄養・体操・お口の健康、ウォーキング手帳）を用いて、区民に向けて「減塩」や「野菜の摂取」「運動習慣」の大切さを周知する。							
主なターゲット層	☒ 乳幼児期	☒ 学童期	☒ 思春期	☒ 青年期	☒ 壮年期	☒ 高齢期		
事業内容	・パンフレットを西蒲区内各所で配布、加えて母子・成人各種健康教室で使用するなど広く普及啓発を実施 ・区内の希望した園・子育て支援センター・小・中学校に対して、作成したパンフレットを使用したお口の健康教育を実施 ・9月から11月までの歩数を記録して提出する「ウォーキングチャレンジ」を実施（R元年度～継続） ・1歳誕生歯科健診での栄養相談を実施（R2年度～継続） ・安産教室での骨密度測定と骨粗しょう症予防相談会を実施（R3年度～継続） ・コミ協主催のイベントで若年層を重点ターゲットとした骨密度測定、健康に関するクイズを実施（骨密度測定：93名、西蒲健康クイズ：140名） ・自治協議会主催のイベントでSATと栄養指導、「にしかんやさいのレシピ」のレシピ動画放映、1日に必要な野菜の量クイズを実施（92名）また、同イベントで「にしかんみんなの体操」の体験会も実施（35名）							
R6年度実績	事業評価指標	健康教室参加者数やウォーキング手帳提出者数など普及総数						
	実績値	3621人（3月末見込）						
R6年度事業評価	☒ 地域のイベントと連携して実施し、若い世代への普及啓発を実施できた。							
R7年度予定	継続							
課題・R7方向性	若い世代や無関心層の人へどう働きかけるかが課題。 各事業を継続、子育て世代を対象にウォーキングチャレンジを実施予定。							

【取組の様子】





【栄養】イベントでのSAT体験 【歯科】パンフレット 【運動】ウォーキング手帳

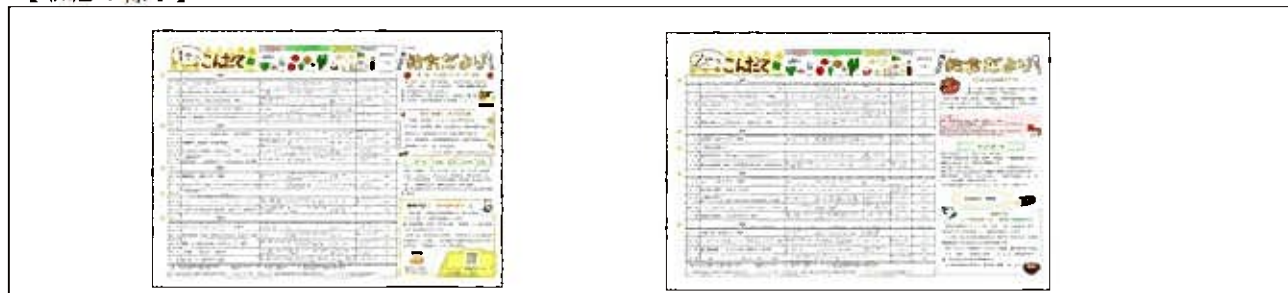
担当課	西蒲区役所健康福祉課
-----	------------

事業名等	給食だよりのデータ提供
------	-------------

基本施策／施策内容	家庭における食育の推進 (1) 望ましい食習慣や知識の習得		
基本目標	☐ 【1】 食を楽しむ	☒ 【2】 食を大切にする	☒ 【3】 食で健康になる
施策の視点・考慮すべき点	☒ 若い世代に対する取組強化	☐ 「新たな日常」への対応	☐ SDGsへの貢献

事業目的・概要	保育施設等における給食だよりの発行を支援する。										
主なターゲット層	◎ 乳幼児期		学童期		思春期	◎	青年期	◎	壮年期		高齢期
事業内容	市立及び配布を希望する私立の保育施設等へ、毎月、共通献立及び栄養・食育・食の安全に関する内容を盛り込んだ給食だよりの素案データを送付する。										
R6年度実績	事業評価指標		給食だより素案データの送付回数								
	実績値		12回（月1回）								
R6年度事業評価	○ 例年通り、毎月の給食だよりデータを送付した。										
R7年度予定	継続										
課題・R7方向性	今後も継続する。										

【取組の様子】



担当課	幼保支援課
-----	-------

事業名等	横越ごはん塾
------	--------

基本施策／施策内容	家庭における食育の推進 (1) 望ましい食習慣や知識の習得		
基本目標	☒ 【1】食を楽しむ	☒ 【2】食を大切にする	☒ 【3】食で健康になる
施策の視点・考慮すべき点	☒ 若い世代に対する取組強化	☐ 「新たな日常」への対応	☒ SDGsへの貢献

事業目的・概要	地域や学校等との連携協力による、横越地区の子どもたちの食育推進						
主なターゲット層	乳幼児期	◎	学童期	思春期	青年期	壮年期	高齢期
事業内容	「ごはんのみそ汁がつくれる横越っ子」をテーマに、保健給食課と協力し、下記事業を実施。 (1)おとな編 お話「幸せの秘訣は共食にあり」話し手 比良松 道一 (2)こども編 ごはんのみそ汁づくり（お話と体験） (3)おもてなし編 公民館文化祭で、子どもたちによるみそ汁の試食提供 (4)おやこ編 横越の食材を使った親子での家庭料理づくり (5)学校給食編 子ども考案のみそ汁を横越小中の学校給食で提供 (6) 地域編 子ども考案のみそ汁を地域の居場所で提供						
R6年度実績	事業評価指標	(1)満足度 (2)リカレント度（また参加したいか） (3)家庭への還元度（家で料理をつくってみたいか）					
	実績値	こども編参加者へのアンケートより (1)満足度（満足したと回答した参加者の割合） 100% (2)リカレント度（また参加したいと回答した人の割合） 80% (3)家庭への還元度（家で料理したいと回答した人の割合） 90%					
R6年度事業評価	◎	◆事業実施にむけて、横越地区の関係機関・団体等の協力の輪が広がった。学校との共有・共動が図られた。 ◆保護者、こどもとも次も参加したいという気持ちや家での食育啓発（料理づくり）につながった。					
R7年度予定	継続						
課題・R7方向性	事業の継続と持続可能な食育推進にむけた土台づくりの構築 ・継続 こども編 ごはんのみそ汁づくり ・新規 こども編 横越小学校で食のお話 話し手 比良松 道一 ・新規 おやこ編 親子でつくった味噌で食の秋を ※その他 令和6年度同様おもてなし編、学校給食編、地域編を実施						

【取組の様子】



担当課	横越地区公民館
-----	---------

事業名等	横越地域学 親子で我が家の味噌をつくろう。
------	-----------------------

基本施策／施策内容	家庭における食育の推進 (1) 望ましい食習慣や知識の習得		
基本目標	☒ 【1】食を楽しむ	☒ 【2】食を大切にする	☒ 【3】食で健康になる
施策の視点・考慮すべき点	☒ 若い世代に対する取組強化	☐ 「新たな日常」への対応	☒ SDGsへの貢献

事業目的・概要	横越の地でモノづくりに関わる人のお話と体験等をとおして、横越を支える人たちのまなざし（想い）に触れる。											
主なターゲット層		乳幼児期	◎	学童期		思春期		青年期	◎	壮年期		高齢期
事業内容	(1)お味噌の話 (2)お味噌づくり ※教え手は横越地区で味噌づくりをしている農園運営者。地元の人に関わることで、地域を知る、学ぶ場にもなっている。味噌づくりを通して食への想いの大切さを伝える。											
R6年度実績	事業評価指標		(1)満足度 (2)リカレント度（また参加したいか）									
	実績値		(1)満足度（満足したと回答した参加者の割合） 100% (2)リカレント度（また参加したいと回答した人の割合） 100%									
R6年度事業評価	◆申込者が定員の3倍強となり、事業を1回追加した。 ◎ ◆味噌（発酵後）を持ち寄り、令和7年度に味噌おにぎりや味噌汁等をつくる企画につながった。→横越ごはん塾として実施											
R7年度予定	継続											
課題・R7方向性	・味噌づくりを横越地区での食育推進事業の一つとして位置づけ、引き続き親子による味噌づくりを実施する。 ・令和7年度「横越ごはん塾」の一環として、親子でつくった味噌を持ち寄り、おにぎりや味噌汁づくりを実施。参加者同士で味噌料理の試食会を行う。											

【取組の様子】



担当課	横越地区公民館
-----	---------

事業名等	男性料理教室
------	--------

基本施策／施策内容	家庭における食育の推進 (1) 望ましい食習慣や知識の習得		
基本目標	☒ 【1】 食を楽しむ	☐ 【2】 食を大切にする	☐ 【3】 食で健康になる
施策の視点・考慮すべき点	☐ 若い世代に対する取組強化	☒ 『新たな日常』への対応	☐ SDGsへの貢献

事業目的・概要	調理実習を通じて食への関心を深めてもらう。									
主なターゲット層	乳幼児期	学童期	思春期	青年期	◎ 壮年期	◎ 高齢期				
事業内容	・節分料理「恵方巻」の作り方を学ぶ。 (献立) 恵方巻、エビとチーズのレンコン蒸し、けんちん汁									
R6年度実績	事業評価指標		参加人数 満足度 講座での気づき							
	実績値		9人 満足度 100% 気づき 89% 気							
R6年度事業評価	恵方巻は、各自が2本巻き、一本は家へ持帰った。けんちん汁とレンコン ○ 蒸しは料理の初心者でも簡単に美味しく作れ、達成感につながり、食への関心が深まった。									
R7年度予定	継続									
課題・R7方向性	今回は、申込が定員を下回ったが、終了後に問い合わせを受けることもあり、広報の方法を見直す必要がある。									

【取組の様子】



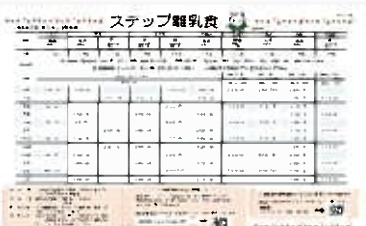
担当課	黒埼地区公民館
-----	---------

事業名等	妊産婦・乳幼児に関する食生活指導・相談
------	---------------------

基本施策／施策内容	家庭における食育の推進 ／ (2) 妊産婦や乳幼児に関する食育の推進		
基本目標	☐ 【1】食を楽しむ	☐ 【2】食を大切にする	☒ 【3】食で健康になる
施策の視点・考慮すべき点	☒ 若い世代に対する取組強化	☐ 『新たな日常』への対応	☐ SDGsへの貢献

事業目的・概要	妊娠期・乳幼児期からの望ましい食習慣の形成と健康保持増進を図るため、食生活における相談や指導を行う。										
主なターゲット層	◎	乳幼児期		学童期		思春期	◎	青年期	壮年期		高齢期
事業内容	はじめての離乳食、ステップ離乳食の開催や母子保健事業（1歳6カ月健診、3歳児健診、育児相談、安産教室等）の実施を通して、乳幼児・妊娠期からの望ましい食生活について、相談及び指導を実施。										
R6年度実績	事業評価指標		離乳食講習会開催数								
	実績値		・はじめての離乳食講習会 126回（見込み） ・ステップ離乳食講習会 66回（見込み）								
R6年度事業評価	◎ 離乳食講習会、母子保健事業（1歳6カ月健診、3歳児健診、育児相談、安産教室等）の実施を通し、乳幼児・妊娠期からの望ましい食生活について相談及び指導を実施。また、保育者に対して家庭における子どもの食育の重要性について啓発を実施。										
R7年度予定	継続										
課題・R7方向性	継続実施										

【取組の様子】

	
---	--

担当課	保健所健康増進課
-----	----------

事業名等	放っておくだけラクチン時短クッキング
------	--------------------

基本施策／施策内容	家庭における食育の推進 / (2) 妊産婦や乳幼児に関する食育の推進		
基本目標	☒ 【1】 食を楽しむ	☒ 【2】 食を大切にする	☐ 【3】 食で健康になる
施策の視点・考慮すべき点	☒ 若い世代に対する取組強化	☒ 『新たな日常』への対応	☒ S D G s への貢献

事業目的・概要	災害時にも役立ち、忙しい保護者が少しでも簡単に調理できる方法の1つを知る。									
主なターゲット層	◎	乳幼児期		学童期		思春期	◎	青年期	壮年期	高齢期
事業内容	災害時にでも使えるバッククッキングを実際に作り、試食する。 栄養士から、幼児期に大切な栄養、食事習慣、困りごとなどについての講義。									
R6年度実績	事業評価指標		①事業評価アンケート（3回連続講座の最終回で実施） ②参加者							
	実績値		①満足度100%、気づき85% ②12人							
R6年度事業評価	とても簡単においしく作ることができた。 ◎ 参加者からは家でも作ってみたい。災害時にも役に立ちそうだと好評だった。									
R7年度予定	継続（見直し）									
課題・R7方向性	幼児期は、食事について困りごとを抱えている家庭が多いようなので、楽しく作る、楽しく食べるを学べる機会があると良い。今後も食についての内容を継続するか検討したい。									

【取組の様子】



担当課	豊栄地区公民館
-----	---------

事業名等	SNSを活用した投稿キャンペーン
------	------------------

基本施策／施策内容	家庭における食育の推進 (3) 在宅時間を活用した食育の推進		
基本目標	☒ 【1】食を楽しむ	☒ 【2】食を大切にする	☐ 【3】食で健康になる
施策の視点・考慮すべき点	☒ 若い世代に対する取組強化	☒ 「新たな日常」への対応	☐ SDGsへの貢献

事業目的・概要	市産の旬の食材を使った料理をSNSで投稿するキャンペーンを実施することで、食への関心を高めるとともに、旬の市産農産物の魅力発信を行うもの。											
主なターゲット層		乳幼児期		学童期		思春期	◎	青年期		壮年期		高齢期
事業内容	若手料理人コンテスト受賞者が、市の旬の食材を使用したレシピを考案し、それをまとめた「新潟食材レシピ」についてのSNS投稿キャンペーンを実施し、当選者に旬の農産物をプレゼントした。 ①夏期：市公式クックパッドに掲載されているレシピから、旬の市産食材を使って作れるレシピを調理・撮影し、Instagramで投稿してもらう形で実施。新潟食材レシピの料理投稿者は、当選確率を2倍にした。 ②冬期：新潟食材レシピの中から、この時期の旬の食材を使用したレシピを8つ紹介し、「食べたい」と思うレシピに投票してもらう形で実施。											
R6年度実績	事業評価指標		投票数									
	実績値		①12件 ②184件									
R6年度事業評価	夏は調理を前提にキャンペーンを実施したが応募が伸び悩んだ。冬は応募方法を変えたことで応募数が増え、SNSの拡散力を活用して市の旬の食材を市内外にPRすることができた。											
R7年度予定	継続（見直し）											
課題・R7方向性	旬の食材紹介と併せてキャンペーンを実施するなど、発信したい情報と併せて実施を検討する。											

【取組の様子】



担当課	食と花の推進課
-----	---------

3 学校、保育所等における食育の推進

事業名等	菌ちゃんリサイクル元気野菜づくり
------	------------------

基本施策／施策内容	学校・保育所等における食育の推進 (1) 保育所等における食育の推進		
基本目標	☒ 【1】食を楽しむ	☒ 【2】食を大切にする	☐ 【3】食で健康になる
施策の視点・考慮すべき点	☐ 若い世代に対する取組強化	☐ 「新たな日常」への対応	☒ SDGsへの貢献

事業目的・概要	普段は捨てるはずの野菜くずを活用して、ゴミではなく無駄なものはないこと、小さくて見えない微生物（＝親しみを込めて「菌ちゃん」）である菌ちゃんを感じてもらったり、菌ちゃんがいったいの土で元気な野菜が生長する姿を子ども達に自分の姿と置き換えてもらったりして、子ども達の感性を育てていくことを目的としている。										
主なターゲット層	◎ 乳幼児期		学童期		思春期		青年期		壮年期		高齢期
事業内容	・市内保育園等で野菜くずと微生物（菌ちゃん）を活用した野菜づくり（インストラクターを派遣しての支援）の実施 ・園が自立して土づくりを実施できるよう、保育士・教諭向け研修会を開催										
R6年度実績	事業評価指標	①実施園数 ②保育士・教諭向け研修会開催数									
	実績値	①18園 ②2回（2か所）									
R6年度事業評価	インストラクターの派遣や、保育士・教諭向け研修会開催の開催のほか、 ○ 保育園等で自立して土づくりを実施できるよう研修会の中で土づくりマニュアルを配付した。										
R7年度予定	継続										
課題・R7方向性	インストラクターの登録数の減少により、園への派遣の調整が難しくなっている。各年代で切れ目のない学びを提供するため、食と農のわくわくSDGs学習推進事業等も含めてあり方を検討する。										

【取組の様子】



野菜くずを細かくしている様子



分解された土を切り返している様子

担当課	食と花の推進課
-----	---------

事業名等	食に関する体験活動機会の提供						
------	----------------	--	--	--	--	--	--

基本施策／施策内容	学校・保育所等における食育の推進 / (1) 保育所等における食育の推進						
基本目標	☒ 【1】食を楽しむ	☐ 【2】食を大切にする	☐ 【3】食で健康になる				
施策の視点・考慮すべき点	☒ 若い世代に対する取組強化	☐ 「新たな日常」への対応	☐ SDGsへの貢献				

事業目的・概要	保育施設等において、クッキング保育や野菜の栽培などの体験活動の機会を提供する。						
主なターゲット層	☒ 乳幼児期	☐ 学童期	☐ 思春期	☐ 青年期	☐ 壮年期	☐ 高齢期	
事業内容	市内保育施設等において、園児にクッキング保育や野菜の栽培など、食に関する楽しい体験活動の機会を提供する。						
R6年度実績	事業評価指標	なし（在園児の年齢層や給食の運営方式等により体験活動の実施が難しい施設もあるため。）					
	実績値	体験活動を行った施設の割合 96.8%					
R6年度事業評価	各保育施設において、クッキング保育の実施（給食の下処理・おにぎり・ピザ・クッキー・カレー等）や野菜の栽培（トマト・ピーマン・なす・さつまいも・オクラ等）を行っていた。						
R7年度予定	継続						
課題・R7方向性	今後も継続する。						

【取組の様子】

担当課	幼保支援課
-----	-------

事業名等	保育施設等職員を対象とした研修会の開催						
------	---------------------	--	--	--	--	--	--

基本施策／施策内容	学校・保育所等における食育の推進 / (1) 保育所等における食育の推進						
基本目標	☒ 【1】食を楽しむ	☐ 【2】食を大切にする	☒ 【3】食で健康になる				
施策の視点・考慮すべき点	☒ 若い世代に対する取組強化	☐ 「新たな日常」への対応	☐ SDGsへの貢献				

事業目的・概要	保育施設等の職員へ、食育・食の安全に関する知識や取り組みを学ぶ機会を提供し、各施設での食育事業の推進や食の安全確保の一助とする。						
主なターゲット層	乳幼児期	学童期	思春期	青年期	壮年期	高齢期	
事業内容	市内保育施設等で勤務する職員を対象に、食品衛生研修会及び食育研修会を、年1回ずつ企画・開催する。						
R6年度実績	事業評価指標	研修会の開催数					
	実績値	食品衛生研修会1回（オンライン・動画研修） 食育研修会1回（動画研修）					
R6年度事業評価	保育施設では1日に3回食事・おやつを提供のタイミングがあり、外出が必要な集合形式の研修は職員への負担が大きいことから、オンライン及び動画により、園内で受講できる形式とし、食品衛生研修会、食育研修会を開催した。						
R7年度予定	継続						
課題・R7方向性	今後も継続する。						

【取組の様子】

担当課	幼保支援課
-----	-------

事業名等	西区保育施設いもジェンヌおやつ月間						
------	-------------------	--	--	--	--	--	--

基本施策／施策内容	学校・保育所等における食育の推進 ☒ (1) 保育所等における食育の推進						
基本目標	☒ 【1】食を楽しむ	☐ 【2】食を大切にする	☐ 【3】食で健康になる				
施策の視点・考慮すべき点	☒ 若い世代に対する取組強化	☐ 「新たな日常」への対応	☐ SDGsへの貢献				

事業目的・概要	地場産農産物の良さを伝え消費拡大を推進するため、地元特産品である新潟砂丘さつまいも「いもジェンヌ」を西区内保育施設に提供し、「西区保育施設いもジェンヌおやつ月間」を実施。						
主なターゲット層	☒ 乳幼児期	☐ 学童期	☐ 思春期	☐ 青年期	☐ 壮年期	☐ 高齢期	
事業内容	いもジェンヌの出荷が最盛期を迎える12月を「いもジェンヌおやつ月間」とし、西区内で希望する保育施設（53施設）にいもジェンヌを配布し、12月2日（月）～20日（金）に各施設で「いもジェンヌ」を使用したおやつを提供した。また、当日は、保育施設ごとにいもジェンヌの絵本の読み聞かせを実施するなど、いもジェンヌへの親しみや興味がわくような取組を行った。						
R6年度実績	事業評価指標	実施施設数					
	実績値	53施設（西区内）					
R6年度事業評価	○ 西区の特産品であるいもジェンヌに対する親しみと興味を持つ機会を作ることができた。						
R7年度予定	継続						
課題・R7方向性	引き続き西区内で希望する保育施設で実施できるように、JA、生産者及び保育施設関係者と連携して事業を実施する。						

【取組の様子】




担当課	西区農政商工課
-----	---------

事業名等	南区の実りをいただく日						
基本施策／施策内容	学校・保育所等における食育の推進 / (1) 保育所等における食育の推進						
基本目標	☒ 【1】食を楽しむ	☒ 【2】食を大切にする	☒ 【3】食で健康になる				
施策の視点・考慮すべき点	☒ 若い世代に対する取組強化	☐ 「新たな日常」への対応	☒ SDGsへの貢献				
事業目的・概要	子どもの頃から様々な体験を通して、食に関する知識と食を選択する力を修得し健全な食生活を実践することにより、健やかな子どもに成長することを目的としている。						
主なターゲット層	☒ 乳幼児期	☐ 学童期	☐ 思春期	☐ 青年期	☐ 壮年期	☐ 高齢期	
事業内容	南区内の市立保育施設において、毎月13日(み・な・み=3+7+3=13)を「南区の実りをいただく日」として、地域の生産農家や園の畑での栽培・収穫体験、地域住民や生産者を招待した集会の開催とそこでの園児自身による活動発表等を行っている。さらに、各園の取り組みを毎月区役所だよりへ掲載し、区民へ広く周知することで食育についての啓発を図っている。						
R6年度実績	事業評価指標	実施施設数					
	実績値	10園					
R6年度事業評価	○ 野菜の栽培や収穫、収穫した野菜を味わうなどの活動を通して、園児の食への興味関心を高めることにつながった。						
R7年度予定	継続						
課題・R7方向性	各園が地域の生産農家等とのつながりを持ちながら継続していく。						

【取組の様子】



担当課	南区健康福祉課
-----	---------

事業名等	新潟県 わくわく教育ファーム推進事業 （「アグリ・スタディ・プログラム」の推進）
------	---

基本施策／施策内容	学校・保育所等における食育の推進 / (2) 小・中学校における食育の推進		
基本目標	☒ 【1】食を楽しむ	☒ 【2】食を大切にする	☐ 【3】食で健康になる
施策の視点・考慮すべき点	☐ 若い世代に対する取組強化	☐ 「新たな日常」への対応	☐ SDGsへの貢献

事業目的・概要	学習と農業を結び付けた独自の農業体験学習プログラム「アグリ・スタディ・プログラム」を推進し、子ども達に本市が誇る農業や食に対する理解を深め、ふるさとへの愛着や誇り、生きる力を培う。											
主なターゲット層	△	乳幼児期	◎	学童期	△	思春期		青年期		壮年期		高齢期
事業内容	・「アグリ・スタディ・プログラム」に基づき市内小学校における農業体験学習を推進する。 ・市内の幼稚園・保育園・こども園・小学校・中学校・特別支援学校が実施するアグリパーク等での日帰り及び宿泊を伴う農業体験学習、いくとびあ食花・近隣農家での日帰り農業体験学習について、宿泊費及び交通費の一部を支援する。											
R6年度実績	事業評価指標		市内小学校実施校数									
	実績値		106校									
R6年度事業評価	○ 市内全小学校で農業体験学習を実施した。											
R7年度予定	継続											
課題・R7方向性	季節によって利用が偏っており、冬場の利用が少ない。教員向け研修等でアグリパークに導入した米粉製粉機の活用や、冬場も利用できるプログラムを紹介し、冬場の利用増加を図る。また、各年代で切れ目のない学びを提供するため、食と農のわくわくSDGs学習推進事業等も含めてあり方を検討する。											

【取組の様子】



担当課	食と花の推進課
-----	---------

事業名等	学校教育田設置事業
------	-----------

基本施策／施策内容	学校・保育所等における食育の推進 (2) 小・中学校における食育の推進		
基本目標	☒ 【1】食を楽しむ	☒ 【2】食を大切にする	☐ 【3】食で健康になる
施策の視点・考慮すべき点	☐ 若い世代に対する取組強化	☐ 「新たな日常」への対応	☐ SDGsへの貢献

事業目的・概要	田植え・稲刈り及び収穫祭等、年間の米づくり体験を通じて、米の消費拡大と次世代を担う子どもたちに農業および米に対する理解を深めてもらうとともに、米を中心とした日本型食生活の普及及び定着を図る。											
主なターゲット層		乳幼児期	◎	学童期	◎	思春期		青年期		壮年期		高齢期
事業内容	市内小・中学校の教育田のほ場借り上げに必要な経費（指導料、収穫補償料、学校に提供する米の費用）に対して補助金を交付する。											
R6年度実績	事業評価指標		①実施校数 ②取組面積									
	実績値		①72校 ②取組面積 510.94a									
R6年度事業評価	○ 実施校への補助金の交付のほか、対象校やJA担当者が事業を円滑に進められるように事務マニュアルの配布を行った。											
R7年度予定	継続											
課題・R7方向性	協力農家の高齢化により受入れ先の確保が難しくなっている。また、田植えや稲刈り体験だけではスマート農業をはじめとした現在の農業を理解するのは難しい。各年代で切れ目のない学びを提供するため、食と農のわくわくSDGs学習推進事業等も含めてあり方を検討する。											

【取組の様子】

	生育観察		稲刈り
---	------	--	-----

担当課	食と花の推進課
-----	---------

事業名等	こども食育新聞の発行		
基本施策／施策内容	学校・保育所等における食育の推進 / (2) 小・中学校における食育の推進		
基本目標	☒ 【1】食を楽しむ	☒ 【2】食を大切にする	☒ 【3】食で健康になる
施策の視点・考慮すべき点	☒ 若い世代に対する取組強化	☒ 「新たな日常」への対応	☒ SDGsへの貢献

事業目的・概要	子どもたちに食に関する情報をわかりやすく伝え、食に関心をもってもらうことを目的とする。									
主なターゲット層	乳幼児期	学童期	思春期	青年期	壮年期	高齢期				
事業内容	・食に関する情報をテーマとした小学生向け情報紙「こども食育新聞」を発行 ・教育委員会を通じて各小学校へ電子で配布するとともに、保育園にも情報提供を行った ・市ホームページにバックナンバーも含めて掲載を行った									
R6年度実績	事業評価指標	発行回数/年								
	実績値	2回								
R6年度事業評価	○ 「ちょいしお（減塩）」「自炊」をテーマに発行。メインターゲットである小学校に配信及び保育園等にも情報共有を行った。									
R7年度予定	継続									
課題・R7方向性	多くの学校で活用していただけるよう、アンケート等で学校側が求めるテーマを把握し、新聞作成に反映させていく。									

【取組の様子】




バックナンバー

担当課	食と花の推進課
-----	---------

事業名等	栄養教諭等資質向上のための研修
------	-----------------

基本施策／施策内容	学校・保育所等における食育の推進 / (2) 小・中学校における食育の推進		
基本目標	☐ 【1】食を楽しむ	☐ 【2】食を大切にする	☒ 【3】食で健康になる
施策の視点・考慮すべき点	☒ 若い世代に対する取組強化	☒ 「新たな日常」への対応	☐ SDGsへの貢献

事業目的・概要	食に関する指導の充実のため、研修を通して栄養教諭等の資質向上を図る。									
主なターゲット層	乳幼児期	学童期	思春期	◎	青年期	◎	壮年期		高齢期	
事業内容	栄養教諭等を対象に食育推進運営研修を年2回開催した。 ・7月：・専門性を生かした食育の推進、給食管理・衛生管理について ・給食の時間における食に関する指導について ・12月：・食物アレルギーについて									
R6年度実績	事業評価指標	研修評価 ①活用度 ②満足度								
	実績値	A評価 7月：①90.2% ②78.7% 12月：①88.7% ②82.3%								
R6年度事業評価	・「給食の時間における食に関する指導」について、給食献立を活用してグループワークを行い、具体的な指導内容について考えることができた。 ○ ・アレルギーの事例検討では市内学校園での事例に基づいてグループワークを行い、講師からの助言を受けることで疑問を解消することができ、業務に活かすことができた。									
R7年度予定	継続									
課題・R7方向性	演習を取り入れることによって、自分の考えを明確にし、取組の方向性を見出すことができた。今後は、受講生同士が十分に考えを出し合い、全体で共有できるようにし、資質向上を目指す。									

【取組の様子】

担当課	保健給食課
-----	-------

事業名等	学校における食に関する指導の充実		
基本施策／施策内容	学校・保育所等における食育の推進 / (2) 小・中学校における食育の推進		
基本目標	☒ 【1】食を楽しむ	☒ 【2】食を大切にする	☒ 【3】食で健康になる
施策の視点・考慮すべき点	☐ 若い世代に対する取組強化	☒ 「新たな日常」への対応	☒ SDGsへの貢献

事業目的・概要	学校における食に関する指導を実施することを通して、正しい知識と情報にもとづき自ら判断できる力を身に付けられるようにする。											
主なターゲット層		乳幼児期	◎	学童期	◎	思春期		青年期		壮年期		高齢期
事業内容	○給食の時間における食に関する指導 給食を通じて・食料の生産、流通、消費・食品の種類や特徴・栄養バランスのとれた食事について指導を行った。 ○教科等における食に関する指導 各教科等において食育の視点を位置づけ、意図的に指導を行った。 ○アルビレックス新潟と連携した食育事業 選手が普段食べているメニューを学校給食用にアレンジしてアルビde給食を実施。また、実施に伴って、食に関する正しい知識についての啓発動画を作成し、各学校で視聴した。											
R6年度実績	事業評価指標		アルビde給食実施校数									
	実績値		100%（市内小学校106校）									
R6年度事業評価	○ 市内小学校全校で実施できた											
R7年度予定	継続											
課題・R7方向性	今後も継続していく。指導がしやすい環境づくり（指導資料の提供等）を進めていく。											

【取組の様子】

10月16日に、アルビde給食を実施した小針小学校で給食の様子を公開し取材を受けた。
--

担当課	保健給食課
-----	-------

事業名等	教職員を対象とした研修会の開催
------	-----------------

基本施策／施策内容	学校・保育所等における食育の推進 (2) 小・中学校における食育の推進		
基本目標	☒ 【1】 食を楽しむ	☒ 【2】 食を大切にする	☒ 【3】 食で健康になる
施策の視点・考慮すべき点	☒ 若い世代に対する取組強化	☒ 「新たな日常」への対応	☐ SDGsへの貢献

事業目的・概要	学校における食育を推進するため、研修などを通して教職員の意識啓発を行う。						
主なターゲット層	乳幼児期	学童期	思春期	青年期	壮年期	高齢期	
事業内容	学校における食育推進のために、研修を通じて給食主任をはじめとする教職員の意識啓発を行う。また、アルビレックス新潟を活用した朝食摂取と睡眠コントロールの動画教材等を併用した取組を実施した。						
R6年度実績	事業評価指標	①給食主任研修会回数 ②新潟市学校給食会理事幹事会回数					
	実績値	①1回 ②2回					
R6年度事業評価	◎ 例年の食育実施状況調査結果と学校給食管理に関する説明、学校給食研究推進校4校と食育推進スクールランチ校2校（朝食摂取と睡眠コントロールの取組）の計6校からの実践発表により、全校園の給食主任の意識啓発を図ることができた。また、アルビレックス新潟を活用した朝食摂取と睡眠コントロールの動画教材によって全校園の意識を啓発することができた。						
R7年度予定	継続						
課題・R7方向性	朝食摂取状況は、悪化の一途を辿っている。児童生徒の朝食摂取率向上に向けた食育推進校の取組や朝食摂取率向上に向けたアルビレックス新潟を活用した新たな取組によって全校園を指導啓発していく。						

【取組の様子】

食育実施状況調査による、主に給食時間内の喫食時間を増やすような働きかけ。 食育推進研究校による地場産物等の地域に根ざした食、災害時の食、食育推進スクールランチ校による朝食摂取と睡眠コントロール、自分で食事を作る取組等の紹介。 食物アレルギー対応の徹底についての講義。 アルビレックス新潟を活用した動画教材についての説明。
--

担当課	保健給食課
-----	-------

事業名等	研究推進校指定 「食に関する指導実践事例集」の作成						
------	---------------------------	--	--	--	--	--	--

基本施策／施策内容	学校・保育所等における食育の推進 〃 (2) 小・中学校における食育の推進						
基本目標	☒ 【1】食を楽しむ	☒ 【2】食を大切にする	☒ 【3】食で健康になる				
施策の視点・考慮すべき点	☒ 若い世代に対する取組強化	☒ 「新たな日常」への対応	☐ SDGsへの貢献				

事業目的・概要	・児童生徒の「自分の食を管理する力の育成」を目指し、食の理解と食の実践力を高める。 ・朝食欠食率の改善。							
主なターゲット層	乳幼児期	◎	学童期	◎	思春期	青年期	壮年期	高齢期
事業内容	○食育研究推進校4校を指定し、地域の食材や食の大切さについて学ぶなど、各校独自の取り組みを展開し、中学校区単位で開催する食育ミニフォーラムで、地域や保護者にも活動内容を共有するほか、「食に関する指導実践事例集」としてまとめ、他の学校にも横展開を図る。 ○食育推進スクールランチ校2校が、早寝早起き朝ごはん運動のように「朝ごはん摂取率を向上させ、睡眠時間等の生活習慣の改善を図る」ことを目的に学校独自の活動に取り組む。							
R6年度実績	事業評価指標	発行回数						
	実績値	1回						
R6年度事業評価	◎ 朝ごはん摂取率と睡眠時間の関係に着目し、どうすればより良い健康的な生活を送ることができるか、生徒、教職員、保護者、地域が一つとなって取り組んだ。また、生徒が自分で食事を作れるようになるきっかけや機会をたくさん仕組んだ取組を行うことができた。							
R7年度予定	継続							
課題・R7方向性	食育研究推進校4校及び、アルビレックス新潟を活用した新たな朝食摂取率向上に向けた取組の両方により、本市の喫緊の課題である朝食摂取率の向上を目指して取り組んでいく。							

【取組の様子】

○両川中学校区の取組
小中連携しながら、小学校は主に地場産物について、中学校は災害食に関して、それぞれをカリキュラムに位置付け食の大切さについて児童生徒に学ばすことができた。

○味方中学校区の取組
小中地域が連携しながら、地域の特産物を積極的に教材化し、食の大切さを学び、同時に地域への愛着を深めることができた。

○食育推進スクールランチ校（南浜中学校、濁川中学校）の取組
朝ごはん摂取率と睡眠時間の関係に着目し、どうすればより良い健康的な生活を送ることができるか、生徒、教職員、保護者、地域が一つとなって取り組んだ。また、生徒が自分で食事を作れるようになるきっかけや機会をたくさん仕組んだ取組を行うことができた。

担当課	保健給食課
-----	-------

事業名等	食育指導者の派遣
------	----------

基本施策／施策内容	学校・保育所等における食育の推進 / (2) 小・中学校における食育の推進		
基本目標	☒ 【1】食を楽しむ	☒ 【2】食を大切にする	☒ 【3】食で健康になる
施策の視点・考慮すべき点	☒ 若い世代に対する取組強化	☐ 「新たな日常」への対応	☐ SDGsへの貢献

事業目的・概要	栄養教諭等が未配置の学校（スクールランチ実施校28校）における食の指導。											
主なターゲット層		乳幼児期		学童期	◎	思春期		青年期		壮年期		高齢期
事業内容	・5つの指導テーマの中から学校が指導内容を選択し、各学校や各学年の実態に見合った食育を実施。 R6指導テーマ：「中学生にふさわしい食生活」、「中学生のためのスポーツ栄養と食事」、「受験期の栄養と食事」、「成長期に大切にしたい朝食と睡眠」、「家庭科等の年間指導計画に基づいた食育」 ・保護者対象のスクールランチ試食会後に食育講演会を実施。											
R6年度実績	事業評価指標		食育指導者の派遣校数									
	実績値		令和6年度：17校・35回・3,964人 (R5：14校)									
R6年度事業評価	◎ スクールランチ校への食育指導者の派遣は、朝食の効果や質を様々な視点から理解し、自分の生活と食事の改善点を考える機会となるよう進め、生徒が自身の食生活についてより主体的に捉えるなど指導効果はあった。											
R7年度予定	廃止／休止											
課題・R7方向性	中学校スクールランチ校では、令和7年度から食缶方式の全員給食が実施されることに伴い、栄養教諭等が配置される。そのため、食育指導者派遣事業は廃止する。今後は、栄養教諭等が学校と調整を図りながら食育指導を推進していく。											

【取組の様子】

担当課	保健給食課
-----	-------

事業名等	北区地場産物を使った食育学校支援事業
------	--------------------

基本施策／施策内容	学校・保育所等における食育の推進 ／ (2) 小・中学校における食育の推進		
基本目標	☐ 【1】 食を楽しむ	☒ 【2】 食を大切にする	☐ 【3】 食で健康になる
施策の視点・考慮すべき点	☒ 若い世代に対する取組強化	☐ 「新たな日常」への対応	☐ SDGsへの貢献

事業目的・概要	地場産農産物の利用拡大と食育の推進を図るため、北区内の小・中学校で地場産農産物を活用した食育活動について支援を行った。									
主なターゲット層	乳幼児期	◎	学童期	◎	思春期		青年期	壮年期		高齢期
事業内容	区内小中学校の総合学習等で地場産農産物を使った取組みに対して、上限20,000円を助成する。									
R6年度実績	事業評価指標	—								
	実績値	・小学校5校(葛塚・葛塚東・木崎・南浜・岡方第一) ・中学校2校(濁川・南浜)								
R6年度事業評価	○ 区内小中学校の1/3以上(7/20校)で実施することができ、地場産農産物の利用拡大と食育推進につながった。									
R7年度予定	継続(見直し)									
課題・R7方向性	この取組みは、区内の小中学校に定着しているため、今後も支援を継続する予定。 近年の農産物価格や資材高騰に伴う小中学校負担の軽減のため、上限額を引き上げる予定。									

【取組の様子】

担当課	北区産業振興課
-----	---------

事業名等	小学校収穫体験・生産者講話
------	---------------

基本施策／施策内容	学校・保育所等における食育の推進 ／ (2) 小・中学校における食育の推進		
基本目標	☒ 【1】食を楽しむ	☒ 【2】食を大切にする	☐ 【3】食で健康になる
施策の視点・考慮すべき点	☒ 若い世代に対する取組強化	☐ 『新たな日常』への対応	☐ SDGsへの貢献

事業目的・概要	食や農業に対する理解と関心を深める機会を提供し、食育を推進するため、西区内の小学3年生を対象に、大根の収穫体験とJA職員による生産者講話を実施する。併せて、大根を給食食材として提供する。									
主なターゲット層		乳幼児期	◎	学童期		思春期		青年期	壮年期	高齢期
事業内容	希望する小学校の小学3年生に対して、赤塚地区での大根の収穫体験とJA職員による生産者講話を10月に実施した。あわせて、区内全小学校に大根を給食食材として提供し、大根給食を実施した。また、給食の日には生産者へのインタビュー動画を放送し、より親しみや興味がわくような取組を行った。									
R6年度実績	事業評価指標		①収穫体験実施校数 ②大根給食実施校数							
	実績値		①15校 ②19校							
R6年度事業評価	○ 西区の特産品である大根に対する親しみと興味を持つ機会を作ることができた。									
R7年度予定	継続									
課題・R7方向性	JAや小学校と連携し、継続して実施する。									

【取組の様子】



担当課	西区農政商工課
-----	---------

事業名等	生きた教材となる標準献立の作成
------	-----------------

基本施策／施策内容	学校・保育所等における食育の推進 (3) 給食を通じた食育活動の推進		
基本目標	☒ 【1】食を楽しむ	☒ 【2】食を大切にする	☒ 【3】食で健康になる
施策の視点・考慮すべき点	☒ 若い世代に対する取組強化	☒ 「新たな日常」への対応	☐ SDGsへの貢献

事業目的・概要	毎日の学校給食を通して、児童生徒の食に対する興味関心を高め、自らの健康を考えた食生活を実践できるよう標準献立の充実を図る。									
主なターゲット層	乳幼児期	◎	学童期	◎	思春期	青年期	壮年期	高齢期		
事業内容	①生きた教材となる標準献立の作成及び実施 ・季節の地場産物を取り入れた地場産推奨献立 ・家庭で食べられなくなりつつある、郷土料理や伝統的な料理を取り入れた献立 ・年中行事や二十四節気などに合わせた献立 ・テーマ（いい歯の日など）に合わせた献立 ②アルビレック新潟の選手の食事を取り入れた「アルビde給食」の献立作成及び実施 ③11月を「米飯給食、地場産給食推進月間」とし、地場産献立を取り入れた「キラッと新潟米☆地場もん献立」の献立作成及び実施									
R6年度実績	事業評価指標		②③実施率							
	実績値		①100% ②100%							
R6年度事業評価	献立に興味関心をもつことによって、食や健康に関する興味関心も高められた。「アルビde給食」は食と花の推進課と連携することによって、教材動画を活用した食に関する指導を行うことができた。									
R7年度予定	継続									
課題・R7方向性	ねらいをもった標準献立となるよう見直しを図っていく。また、他課との連携も検討していく。									

【取組の様子】

--

担当課	保健給食課
-----	-------

事業名等	学校給食における地産地消の推進
------	-----------------

基本施策／施策内容	学校・保育所等における食育の推進／(3) 給食を通じた食育活動の推進		
基本目標	☒ 【1】食を楽しむ	☒ 【2】食を大切にする	☒ 【3】食で健康になる
施策の視点・考慮すべき点	☒ 若い世代に対する取組強化	☒ 「新たな日常」への対応	☒ SDGsへの貢献

事業目的・概要	学校給食に地場産物を積極的に活用し、地域の食材を知り、味わうことを通して、地域への愛着をもてるようにする。									
主なターゲット層	乳幼児期	◎	学童期	◎	思春期	青年期	壮年期	高齢期		
事業内容	・農林水産部や各区役所と連携し、地場産給食事業を各学校・学校給食センターで行う。 ・標準献立に、市内産農水産物を取り入れた「地場産推奨献立」を作成し、各学校・学校給食センターで地域の状況に応じてアレンジし、提供する。 ・地場産利用率調査を実施し、進捗を把握する。									
R6年度実績	事業評価指標	学校給食における地場産物を使用する割合（金額ベース） 60.2%（令和8年度）								
	実績値	56.80%								
R6年度事業評価	○ ・給食に使用する食材はできる限り国内産とし、可能な範囲で市内産・県産を優先的に使用するようにした。 ・11月を「米飯給食、地場産給食推進月間」とし、地場産献立を取り入れた「キラッと新潟米☆地場もん献立」を実施した。									
R7年度予定	継続									
課題・R7方向性	使用割合だけでなく、地場産物を活用した食に関する指導の充実を図る必要がある。標準献立の作成と合わせて指導資料等の作成を検討していく。									

【取組の様子】

--

担当課	保健給食課
-----	-------

事業名等	なないろ野菜給食の提供・なないろ野菜の普及啓発
------	-------------------------

基本施策／施策内容	学校・保育所等における食育の推進 / (3) 給食を通じた食育活動の推進		
基本目標	☒ 【1】食を楽しむ	☐ 【2】食を大切にする	☐ 【3】食で健康になる
施策の視点・考慮すべき点	☒ 若い世代に対する取組強化	☐ 「新たな日常」への対応	☐ SDGsへの貢献

事業目的・概要	新潟市西蒲区のブランド野菜『にしかん なないろ野菜』の普及および学校給食での地産地消等の推進											
主なターゲット層		乳幼児期	◎	学童期	◎	思春期		青年期		壮年期		高齢期
事業内容	西蒲区産業観光課、保健給食課、西川図書館、食と花の推進課が連携し以下の取組を実施。 ①学校給食センター・学校への品種・収穫時期等の情報提供 ②行政職員による生産者と学校等の橋渡し、各々との調整 ③学校農園等での児童・生徒によるなないろ野菜の栽培 ④なないろ野菜を活用した給食献立の考案 ⑤なないろ野菜を活用した給食の提供 ⑥なないろ野菜給食の取材 ⑦給食献立を元にしたレシピカード作成・配付、市COOKPADへの掲載 ⑧福祉事務所による学校等へのなないろ野菜の配送 ⑨なないろ野菜の販促用資材（ポスター、のぼり旗等）の貸与、缶バッジ等の配付 ⑩図書館でのなないろ野菜紹介ポスター掲示											
R6年度実績	事業評価指標		学校給食での提供									
	実績値		延べ20校、4,000名に提供									
R6年度事業評価	今年度からなないろ野菜を配送可能なエリアを広げたことで、提供可能な◎学校が増加した。また、COOKPADへアップしたことでなないろ野菜の調理方法もあわせてアピールすることができるようになった。											
R7年度予定	継続											
課題・R7方向性	学校給食費の公会計化により、各校でなないろ野菜を活用しやすくなるため、より学校への提供を拡大していく。											

【取組の様子】



担当課	保健給食課
-----	-------

事業名等	西区一斉いもジェンヌ給食
------	--------------

基本施策／施策内容	学校・保育所等における食育の推進 ／ (3) 給食を通じた食育活動の推進		
基本目標	☒ 【1】食を楽しむ	☐ 【2】食を大切にする	☐ 【3】食で健康になる
施策の視点・考慮すべき点	☒ 若い世代に対する取組強化	☐ 『新たな日常』への対応	☐ SDGsへの貢献

事業目的・概要	地場産農産物の良さを伝え消費拡大を推進するため、地元特産品である新潟砂丘さつまいも「いもジェンヌ」を西区内の小学校に提供し、「西区一斉いもジェンヌ給食の日」を実施する。										
主なターゲット層		乳幼児期	◎	学童期		思春期		青年期	壮年期		高齢期
事業内容	西区内全小学校（19校）にいもジェンヌを配布し、令和6年12月2日（月）に各校で「いもジェンヌ」を使用したメニューを提供した。また、当日は生産者へのインタビューやいもジェンヌができるまでの動画を放送し、いもジェンヌへの親しみや興味が湧くような取組を行った。										
R6年度実績	事業評価指標		実施校数								
	実績値		19校（西区内全小学校）								
R6年度事業評価	○ 西区の特産品であるいもジェンヌに対する親しみと興味を持つ機会を作ることができた。										
R7年度予定	継続										
課題・R7方向性	引き続き西区小学校全校で実施できるように、JA、生産者及び小学校関係者と連携して事業を実施する。										

【取組の様子】



担当課	西区農政商工課
-----	---------

事業名等	コシヒカリ給食
------	---------

基本施策／施策内容	学校・保育所等における食育の推進 (3) 給食を通じた食育活動の推進		
基本目標	☒ 【1】 食を楽しむ	☒ 【2】 食を大切にする	☐ 【3】 食で健康になる
施策の視点・考慮すべき点	☒ 若い世代に対する取組強化	☐ 「新たな日常」への対応	☐ SDGsへの貢献

事業目的・概要	次代を担う小学生に対し、食や農業に対する理解と関心を深める機会を提供し、地場産農産物の使用拡大と地産地消、食育を推進するため、西区内19の全小学校給食の米を市内産こしいぶきから西区産コシヒカリにかえて提供する。										
主なターゲット層	乳幼児期	◎	学童期		思春期		青年期		壮年期		高齢期
事業内容	西区小学校全校19校にて計11回（4月17日、5月29日、6月19日、7月17日、9月26日、10月16日、11月20日、12月18日、1月29日、2月17日、3月5日）実施した。また、新米に切り替わる11月には生産者へのインタビュー動画を放送した。										
R6年度実績	事業評価指標		実施回数								
	実績値		11回								
R6年度事業評価	○ 西区産コシヒカリに対する親しみと興味を持つ機会を作ることができた。										
R7年度予定	継続										
課題・R7方向性	各小学校と連携して継続予定。										

【取組の様子】



担当課	西区農政商工課
-----	---------

事業名等	「食と農のわくわくSDGs学習」推進事業
------	----------------------

基本施策／施策内容	学校・保育所等における食育の推進 ／ (4) 高校、大学等における食育の推進		
基本目標	☒ 【1】食を楽しむ	☒ 【2】食を大切にする	☐ 【3】食で健康になる
施策の視点・考慮すべき点	☒ 若い世代に対する取組強化	☒ 「新たな日常」への対応	☒ SDGsへの貢献

事業目的・概要	主に小学校高学年～専門学校・大学を対象とした食と農に関する探究的な学習を推進し、本市の豊かな食や農への理解を深め、地域への誇りや愛着、生きる力を培うとともに、本市の農業や食品産業を支える人材づくりにつなげる。											
主なターゲット層		乳幼児期	◎	学童期	◎	思春期	◎	青年期		壮年期		高齢期
事業内容	主に小学校高学年～専門学校・大学を対象とした食と農に関する探究的な学習を推進し、本市の豊かな食や農への理解を深め、地域への誇りや愛着、生きる力を培うとともに、本市の農業や食品産業を支える人材づくりにつなげる。											
R6年度実績	事業評価指標		食と農のわくわくSDGs学習実施校数									
	実績値		18校									
R6年度事業評価	◎ 新潟市総合計画2023の目標14校に対し実績が18校となった。実施校の学習にかかる交通費等の支援や講師の紹介などを行うとともに、新たに導入した微細粉の米粉製粉機の活用も図った。さらに、学習に活用するため、実践事例集や教材となる動画を作成した。											
R7年度予定	継続											
課題・R7方向性	実施校の学習を支援するとともに、教材用動画や微細粉の米粉製粉機の活用をより一層図ることで、新たな実践事例を増やし、実施校の増加につなげる。また、各年代で切れ目のない学びを提供するため、新潟発わくわく教育ファーム推進事業等も含めてあり方を検討する。											

【取組の様子】

 米作りでのドローンの活用を学習	 区長に発表、提言、質問
--	---

担当課	食と花の推進課
-----	---------

事業名等	研修・ボランティアの受け入れ		
基本施策／施策内容	学校・保育所等における食育の推進 ／ (4) 高校、大学等における食育の推進		
基本目標	☒ 【1】食を楽しむ	☒ 【2】食を大切にする	☒ 【3】食で健康になる
施策の視点・考慮すべき点	☒ 若い世代に対する取組強化	☐ 『新たな日常』への対応	☒ SDGsへの貢献

事業目的・概要	中学校、高校、大学の生徒・学生を受入れることで、若い世代の目線を活かした教室運営体制を検討するとともに、受入れた学生自身の食育推進につなげる。											
主なターゲット層		乳幼児期	◎	学童期	◎	思春期	◎	青年期	◎	壮年期	◎	高齢期
事業内容	・職場実習（新潟大学、開志専門職大学・アニメ・マンガ学部・事業創造学部）や職場体験（さくら国際高校、上山中学校、内野中学校、鳥屋野中学校、山潟中学校）を受け入れた。 ・新規で開志専門職大学の職場実習を受け入れた。（実習270時間）食の情報展示コーナーの体験展示の企画、作成し設置した。 ・ボランティア活動は、今年度も明鏡高校を受け入れた。（30時間/人）料理教室やミニ体験の補助をしてもらった。											
R6年度実績	事業評価指標		職場実習・職場体験回数、人数 ボランティアの人数									
	実績値		職場実習・職場体験：84回/年、211人 ボランティア：77人（学生：66人、一般11人）									
R6年度事業評価	◎ 職場実習、職場体験は可能な限り受け入れた。またボランティアは、若い世代の受け入れに注力し、小学生から大学生まで多くの方が活動した。											
R7年度予定	継続											
課題・R7方向性	・意見を聴く機会（アンケート等）を作り、教室運営に反映できるよう努める。 ・受け入れた学生自身の食育推進につながるよう実習やボランティア活動の内容を工夫する。 ・ボランティア活動は、定期的に大学への周知を行い、若い世代の受け入れに力を入れる。											

【取組の様子】



担当課	食と花の推進課（食育・花育センター）
-----	--------------------

4 環境に配慮した食育の推進

事業名等	農業サポーター推進事業
------	-------------

基本施策／施策内容	環境に配慮した食育の推進 / (1) 農林漁業体験を通じた食育の推進		
基本目標	☒ 【1】食を楽しむ	☐ 【2】食を大切にする	☐ 【3】食で健康になる
施策の視点・考慮すべき点	☐ 若い世代に対する取組強化	☐ 「新たな日常」への対応	☒ S D G s への貢献

事業目的・概要	野菜づくりや園芸を学びたい、健康づくりをしたい、とお考えの方から農業サポーターとして登録していただき、消費者と交流したい、農業に理解をもってほしい、労働者が不足しているという農家の農作業をボランティアで手伝っていただく制度。									
主なターゲット層	乳幼児期	学童期	◎	思春期	◎	青年期	◎	壮年期	◎	高齢期
事業内容	受入農家及び農業サポーターの登録を行い、農業分野での労働力不足解消につなげる。また、受入農家登録軒数及び農業サポーター登録者数増加のため、市のホームページやSNS等を活用して事業の周知を行う。									
R6年度実績	事業評価指標		・ 受入農家数 ・ 農業サポーター登録者数 ・ 延べ活動日数							
	実績値		・ 受入農家数：46軒 ・ 農業サポーター登録者数：503人 ・ 延べ活動日数：3,021日							
R6年度事業評価	前年と比較して受入農家数は2軒、農業サポーター登録者数は38件増加した。また、受入農家募集の周知のためチラシを刷新し、農業関連の広報誌へ折り込みを行った。									
R7年度予定	継続									
課題・R7方向性	【課題】 ・ サポーターの登録数は増加傾向にあり、受入農家登録軒数も増やしたい。 ・ 登録はしたが、実際の活動に参加できていないサポーターもいる。 【今後】 ・ SNSを積極的に用いた事業周知を行い、さらなる登録数増加やサポーターが活動に参加しやすい環境づくりを図る。									

【取組の様子】



担当課	食と花の推進課
-----	---------

事業名等	白根高校とアルビレックス新潟によるルレクチエ栽培を通じた農業体験		
------	----------------------------------	--	--

基本施策／施策内容	環境に配慮した食育の推進 (1) 農林漁業体験を通じた食育の推進		
基本目標	☐ 【1】食を楽しむ	☒ 【2】食を大切にする	☐ 【3】食で健康になる
施策の視点・考慮すべき点	☒ 若い世代に対する取組強化	☐ 「新たな日常」への対応	☐ SDGsへの貢献

事業目的・概要	南区では地域おこし協力隊を活用した県立白根高等学校生徒の地域活動としてアルビレックス新潟と連携し、南区の特産物であるルレクチエに関する農作業を観光農園で体験することで、双方の農産物への関心を高める。						
主なターゲット層	乳幼児期	学童期	◎	思春期	青年期	壮年期	高齢期
事業内容	白根高校生徒とアルビレックス新潟の新人選手によるルレクチエの農業体験（全3回）を実施。 ①摘果（不要な実を間引く作業）を実施 ②袋がけ（果物に傷が付かないようにする作業）を実施 ③収穫を実施及び追熟の工程を見学 ※アルビレックス新潟は新人選手の人材育成と地域への理解を深め、愛着心を育むことを目的に、農業体験教育「アグリレックス」として社会連携活動に取り組んでいる。						
R6年度実績	事業評価指標	ルレクチエ栽培に関する農作業数：3回					
	実績値	3回実施					
R6年度事業評価	新人選手3名参加、新潟県立白根高等学校 生徒（約15名） ○ 取り組み内容を南区とアルビ双方からSNS発信することで、より多くの人に情報を届けることができた。						
R7年度予定	継続（見直し）						
課題・R7方向性	【方向性】 ルレクチエ農業体験を通じたアルビレックス新潟との連携は継続し3回程度実施予定。 体験者を白根高校生徒から大鷲小学校児童に変更予定。 収穫物の販売が可能か調整を進める。						

【取組の様子】





担当課	南区地域総務課
-----	---------

事業名等	給食を通じた地産地消の促進
------	---------------

基本施策／施策内容	環境に配慮した食育の推進 (2) 地産地消の促進		
基本目標	☒ 【1】 食を楽しむ	☒ 【2】 食を大切にする	☐ 【3】 食で健康になる
施策の視点・考慮すべき点	☒ 若い世代に対する取組強化	☐ 「新たな日常」への対応	☒ SDGsへの貢献

事業目的・概要	給食への地場産物の活用を促すとともに、学校では給食を通じた地場農産物や生産者・農業に対する理解や関心を高める。											
主なターゲット層		乳幼児期	◎	学童期	◎	思春期	△	青年期	△	壮年期		高齢期
事業内容	①学校給食でよく使用する野菜等の入荷及び価格予測について、新潟市中央青果(株)の協力のもと、学校栄養士や食材納入業者等へ毎月情報提供を行った。併せて、希望した社員食堂にも情報提供を行った。 ②SNS (InstagramやCOOKPAD) を活用し、地場産給食や地元の生産者との交流等に取り組んでいる学校の情報を発信した。											
R6年度実績	事業評価指標		①価格予測情報提供回数 ②学校給食に係るSNS発信回数									
	実績値		①12回／年 ②2回／年									
R6年度事業評価	○ 栄養教諭と連携し、地場産給食について情報発信を行った。											
R7年度予定	継続											
課題・R7方向性	地場産食材の活用を推進しつつ、学校給食を「生きた教材」として活用し、子ども達の食や農に関する理解と関心を高められるよう、取組を検討・実施していく。 保護者世代への情報発信が課題であり、地場産給食や地元の生産者との交流等に取り組んでいる学校の情報を積極的に収集し、発信回数を増やしていきたい。											

【取組の様子】



担当課	食と花の推進課
-----	---------

事業名等	地産地消推進事業
------	----------

基本施策／施策内容	環境に配慮した食育の推進 (2) 地産地消の促進		
基本目標	☒ 【1】食を楽しむ	☒ 【2】食を大切にする	☒ 【3】食で健康になる
施策の視点・考慮すべき点	☐ 若い世代に対する取組強化	☐ 「新たな日常」への対応	☒ SDGsへの貢献

事業目的・概要	市内産農産物等への理解を深めることで地産地消の意識向上につなげ、その生産振興と消費拡大を図る。											
主なターゲット層		乳幼児期		学童期		思春期	◎	青年期	◎	壮年期	◎	高齢期
事業内容	新潟市内産農産物、水産物、畜産物及びその加工品等を積極的に取り扱う市内の小売店・飲食店・社員食堂を新潟市地産地消推進の店として認定し、地産地消推進の取り組みを市民に周知する。											
R6年度実績	事業評価指標		「地産地消推進の店」の認定店舗数									
	実績値		飲食店140店、小売店104店、社員食堂14店 計258店									
R6年度事業評価	◎ R6年度末で「食育の日協力店」制度を廃止し、地産地消推進の店への併合を行い、認定基準の要件の緩和・整理を実施。											
R7年度予定	継続											
課題・R7方向性	見直し後、申請のあった店舗に対して認定作業及びSNS等のwebを活用した認定店の取り組みのPRなどを行う。 また、「食育の日」など食育の取り組みを認定店にも働きかける。											

【取組の様子】

「地産地消推進の店」ロゴステッカー



担当課	食と花の推進課
-----	---------

事業名等	「にいがたふうど」リーフレット等の制作
------	---------------------

基本施策／施策内容	環境に配慮した食育の推進 (3) 食文化の継承につながる食育の推進		
基本目標	☒ 【1】食を楽しむ	☒ 【2】食を大切にする	☐ 【3】食で健康になる
施策の視点・考慮すべき点	☒ 若い世代に対する取組強化	☐ 「新たな日常」への対応	☒ SDGsへの貢献

事業目的・概要	風土や地形、歴史に基づく「新潟市の食文化」に関するリーフレット等を制作し、本市の食文化の再考を通して、理解・関心向上を図る。											
主なターゲット層		乳幼児期	◎	学童期	◎	思春期	◎	青年期	◎	壮年期	◎	高齢期
事業内容	新潟県の地形や歴史からくる食の背景・特徴に関する「新潟県版」、新潟市において地理的・歴史的背景から現在も受け継がれている食材等に焦点を当てた「新潟市版」のリーフレットデザイン（日本語版及び英語版）、教材用データ等を制作した。											
R6年度実績	事業評価指標		リーフレットデータ（日本語版、英語版）、教材用データ、ロゴの制作									
	実績値		制作を実施									
R6年度事業評価	◎ 日本語版だけでなく、英語版や振り仮名を多くふった教材用のデータも制作し、幅広い方へ新潟の食文化への理解を深めていただけるようにした。											
R7年度予定	継続											
課題・R7方向性	リーフレットの周知と活用に取り組むとともに、新たに「食文化」として市産農水産物に焦点をあて、積極的に活用している生産者や料理人をツールとしたプロモーションを展開することで、市産食材への認知度向上と食文化への関心向上を図る。											

【取組の様子】



担当課	食と花の推進課
-----	---------

事業名等	各種レシピ集の活用
------	-----------

基本施策／施策内容	環境に配慮した食育の推進 (3) 食文化の継承につながる食育の推進		
基本目標	☒ 【1】食を楽しむ	☒ 【2】食を大切にする	☒ 【3】食で健康になる
施策の視点・考慮すべき点	☒ 若い世代に対する取組強化	☒ 「新たな日常」への対応	☒ SDGsへの貢献

事業目的・概要	昔から伝わる新潟の郷土料理等を次の世代に伝承する											
主なターゲット層		乳幼児期	◎	学童期	◎	思春期	◎	青年期		壮年期		高齢期
事業内容	【郷土料理レシピ集】 ①平成26年度末「伝えたいにいがたの味」 ②平成27年度末「続・伝えたいにいがたの味」 ③平成29年度末「続々・伝えたいにいがたの味」を発行 【あったかおうちごはん】大学生が考案した、あまり料理が得意でない方でも、簡単においしくバランスよく作れるレシピを紹介 【若手料理人おすすめ！新潟食材レシピ】「新潟市若手料理人コンテスト」受賞者による、旬の新潟食材を使ったおすすめレシピを紹介											
R6年度実績	事業評価指標											
	実績値											
R6年度事業評価	○ 食育・花育センターでの食育ミニ体験や料理教室、各種イベント等で設置・配布を行い、本市の郷土料理等に関する普及啓発を図った。											
R7年度予定	継続											
課題・R7方向性	今後も継続しつつ、より多くの場面での活用について検討していく。											

【取組の様子】







伝えたいにいがたの味

担当課	食と花の推進課
-----	---------

事業名等	新潟市食文化創造都市推進会議									
基本施策／施策内容	環境に配慮した食育の推進 (3) 食文化の継承につながる食育の推進									
基本目標	☒ 【1】 食を楽しむ	☒ 【2】 食を大切にする	☐ 【3】 食で健康になる							
施策の視点・考慮すべき点	☐ 若い世代に対する取組強化	☐ 「新たな日常」への対応	☒ SDGsへの貢献							
事業目的・概要	新潟市の魅力である「食文化」をさらに磨きあげ、国内外に広く発信し、交流人口の増加や地域産業の活性化を図る。									
主なターゲット層	乳幼児期	学童期	思春期	◎	青年期	◎	壮年期	高齢期		
事業内容	産学官民が連携して立ち上げた「新潟市食文化創造都市推進会議」を運営する。会議の趣旨に賛同する企業・団体・個人を会員とし、会員が異業種連携して実施する取り組み（食文化創造都市推進プロジェクト）等への支援などを実施。									
R6年度実績	事業評価指標	食文化創造都市推進プロジェクト支援事業 採択件数								
	実績値	4件								
R6年度事業評価	「首都圏の飲食店で新潟市産食材を使った期間限定メニュー提供による販路拡大プロジェクト」など4件の取り組みを採択・支援することで、交流の拡大や地域産業の発展に寄与した。									
R7年度予定	継続									
課題・R7方向性	採択された取り組みは、次年度以降の継続や自走につながる助言などの支援を引き続き行っていく。また、本推進会議として発信の強化や、会員同士の交流の場の提供なども実施予定。									

【取組の様子】

（プロジェクト採択事業）






担当課	食と花の推進課
-----	---------

事業名等	若手料理人による特別講義
------	--------------

基本施策／施策内容	環境に配慮した食育の推進 (3) 食文化の継承につながる食育の推進		
基本目標	☒ 【1】食を楽しむ	☒ 【2】食を大切にする	☒ 【3】食で健康になる
施策の視点・考慮すべき点	☒ 若い世代に対する取組強化	☒ 「新たな日常」への対応	☒ SDGsへの貢献

事業目的・概要	次世代を担う調理師専門学校の学生が、市産農産物の魅力や新潟の食文化を深く知ること、本市の特色である「食と農」への理解を深め、未来への活躍につなげる。											
主なターゲット層		乳幼児期		学童期	◎	思春期	◎	青年期		壮年期		高齢期
事業内容	・若手料理人コンテスト受賞者及びファイナリストによる特別講義を実施。新潟の食材を使用したデモンストレーションを行い、新潟の食や食文化に誇りを持ち、積極的に地元食材の活用ができるよう講義を実施した。 ・新潟の食文化に精通した講師より、のっぺを主とした食文化講義を実施した。											
R6年度実績	事業評価指標		①実施校数 ②対象学生									
	実績値		①市内調理師専門学校4校 ②計273人									
R6年度事業評価	市内にあるすべての調理師専門学校で実施した。次世代の料理人たちに向け、新潟の食材や食文化について、深く知り、考える機会を与える講義が実施できた。											
R7年度予定	継続（見直し）											
課題・R7方向性	調理師専門学校における特別講義については、本市の農産物への理解や魅力発信の目的を鑑みると、料理人に限らず生産者等とも連携し、広い視野で実施することがより効果的であることから、R7年度からはSDGs学習に包括する形で継続予定。											

【取組の様子】



デモンストレーション



食文化講義



講義のまとめHP

担当課	食と花の推進課
-----	---------

事業名等	にいがた市民大学短期講座（夏休み親子講座）「親子で学ぶ新潟の郷土食の歴史と魅力」
------	--

基本施策／施策内容	環境に配慮した食育の推進  (3) 食文化の継承につながる食育の推進		
基本目標	☒ 【1】食を楽しむ	☒ 【2】食を大切にする	☐ 【3】食で健康になる
施策の視点・考慮すべき点	☒ 若い世代に対する取組強化	☐ 「新たな日常」への対応	☒ SDGs への貢献

事業目的・概要	市民の学習ニーズ、時代や社会の変化、新潟の地域特性等に応じた学習機会を提供するため、平成6年度から「にいがた市民大学」を開設し、多様なテーマの講座を実施している。											
主なターゲット層		乳幼児期	◎	学童期		思春期	◎	青年期	◎	壮年期		高齢期
事業内容	小学3～6年生の児童とその保護者を対象に、3回の連続講座を通して、新潟の食文化や食の特徴を学び、郷土食への理解を深める。また、新潟の食材を使って料理をすることで、地元の食材に親しみ、地域の食文化と魅力を次世代につなげる大切さを学ぶ。 ＜各回のテーマ＞ 第1回：新潟の地形や歴史からくる食の背景・特徴 第2回：手作りの極み：新潟県産もち米の醤油だんごとおこわ 第3回：新潟県産の野菜をたっぷり使ったすいとん											
R6年度実績	事業評価指標		受講者満足度（にいがた市民大学全体で90%以上）									
	実績値		新潟市民大学全体の満足度は集計中 （本講座のみ満足度は、児童88.9%、保護者100%）									
R6年度事業評価	児童からは「調理体験が楽しかった」という意見が多く、食を楽しむきっかけになったと考える。また、新潟の食文化や歴史について保護者が高い関心を示し、家庭での食育推進に繋がるものとする。 ◎											
R7年度予定	継続											
課題・R7方向性	・にいがた市民大学は、毎年、講座のテーマを変えて実施している。令和7年度も食に関する講座を実施予定。 ・テーマに興味がある市民を把握することが難しく、効果的な周知が行えないことが課題である。											

【取組の様子】



担当課	生涯学習センター
-----	----------

事業名等	子ども向け文化プログラム体験事業
------	------------------

基本施策／施策内容	環境に配慮した食育の推進 (3) 食文化の継承につながる食育の推進		
基本目標	☒ 【1】食を楽しむ	☐ 【2】食を大切にする	☐ 【3】食で健康になる
施策の視点・考慮すべき点	☒ 若い世代に対する取組強化	☐ 「新たな日常」への対応	☐ SDGsへの貢献

事業目的・概要	本市の文化や歴史、その関連施設を次代を担う子どもたちに知ってもらい、様々な発見をすることで、それらへの興味・関心を醸成する1日に複数のプログラムをツアー形式で実施											
主なターゲット層		乳幼児期	◎	学童期		思春期		青年期		壮年期		高齢期
事業内容	中央、南、西蒲区の3コースのうち、西蒲区コースにて食文化体験を実施。老舗料亭で歴史や食文化を学び、実際に料理を試食。 日時：10月13日（日）料亭 三笠屋、9時30分～16時45分 参加者：小学5～6年生 10人											
R6年度実績	事業評価指標		参加者の文化・歴史関連の活動回数の増加									
	実績値		63.1%が増加したと回答 ※匿名のためコースごとでの算出不可									
R6年度事業評価	参加者からは「初めて渋柿を食べた。柿の料理がおいしかった。」「ちゃんとした和食を食べたことがないのでいい体験だった。」といった感想があり、食文化への興味・関心を醸成できた。											
R7年度予定	廃止／休止											
課題・R7方向性	来年度は、区ごとのコースではなく、区またぎのコースとして行うとともに全市で文化体験を実施。なお、令和7年度は食文化体験の予定なし。											

【取組の様子】



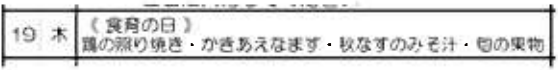
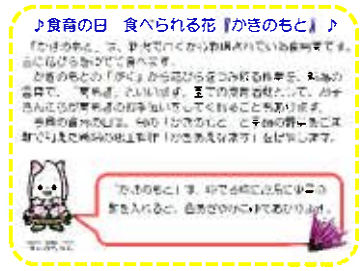
担当課	文化政策課
-----	-------

事業名等	食育の日献立の作成
------	-----------

基本施策／施策内容	環境に配慮した食育の推進 (3) 食文化の継承につながる食育の推進		
基本目標	☒ 【1】食を楽しむ	☐ 【2】食を大切にする	☐ 【3】食で健康になる
施策の視点・考慮すべき点	☒ 若い世代に対する取組強化	☐ 「新たな日常」への対応	☐ SDGsへの貢献

事業目的・概要	郷土料理や地場産の食材を使用した給食を通して園児が様々な料理と出会い、地域の食文化を体験できるよう、市が作成する共通献立に食育の日献立を加える。											
主なターゲット層	◎	乳幼児期		学童期		思春期	◎	青年期	◎	壮年期		高齢期
事業内容	市立及び希望する私立の保育施設等へ提供する共通献立について、毎月19日頃、郷土料理や地場産が使用できる見込みの旬の食材を使用した食育の日献立を取り入れると共に、給食だよりに献立の意図や使用食材に関する情報を掲載し、保護者への周知を図る。											
R6年度実績	事業評価指標		食育の日献立を共通献立に取り入れた回数。									
	実績値		12回（毎月1回）									
R6年度事業評価	毎月1回、共通献立に食育の日献立を取り入れた他、給食だよりに食育の日〇の取り組みやその月の食育の日献立の意図や旬の食材を照会する内容を加えて、保護者への周知を行った。											
R7年度予定	継続											
課題・R7方向性	今後も継続する。											

【取組の様子】

	
---	--

担当課	幼保支援課
-----	-------

事業名等	農村地域生活アドバイザーによる味噌作り教室
------	-----------------------

基本施策／施策内容	環境に配慮した食育の推進 (3) 食文化の継承につながる食育の推進		
基本目標	☐ 【1】 食を楽しむ	☒ 【2】 食を大切にする	☒ 【3】 食で健康になる
施策の視点・考慮すべき点	☐ 若い世代に対する取組強化	☐ 「新たな日常」への対応	☒ SDGsへの貢献

事業目的・概要	手作り味噌の普及と伝統の継承を目的として、農村地域生活アドバイザーを講師に迎え、「岩室地区」・「巻地区」で、市民を対象に『味噌作り教室』を開催。									
主なターゲット層	乳幼児期	学童期	思春期	青年期	◎	壮年期	◎	高齢期		
事業内容	アドバイザー指導のもと、味噌の仕込みを行い、その場でおけに入れるところまで行う。その後自宅で成熟させ、約1年後に食べれるようにする。									
R6年度実績	事業評価指標		岩室教室/参加人数 (開催日) 巻教室/参加人数 (開催日)							
	実績値		岩室教室/計57名 (令和6年5月26日(日)・27日(月)各午前・午後) 巻教室/計14名 (令和7年1月31日(金)午前・午後)							
R6年度事業評価	◎ 担当されているアドバイザーの講座が好評のため、岩室・巻教室ともに参加希望者多数でした。今後も農村地域アドバイザーと連携し、食の大切さ・文化を発信できるようにする。									
R7年度予定	継続									
課題・R7方向性	今後も継続し、伝統の継承と手作り味噌の美味しさを普及する。									

【取組の様子】

岩室教室  巻教室 

担当課	西蒲区産業観光課
-----	----------

事業名等	食品ロス削減推進事業
------	------------

基本施策／施策内容	環境に配慮した食育の推進 ☒ (4) 食品ロス削減につながる食育の推進		
基本目標	☐ 【1】食を楽しむ	☒ 【2】食を大切にする	☐ 【3】食で健康になる
施策の視点・考慮すべき点	☐ 若い世代に対する取組強化	☐ 「新たな日常」への対応	☒ SDGsへの貢献

事業目的・概要	世界的な課題となっている食品ロス削減について、本市でも食品ロス発生量の低減を目指し、啓発活動を中心に実施する。											
主なターゲット層	△	乳幼児期	△	学童期	◎	思春期	◎	青年期	◎	壮年期	△	高齢期
事業内容	①エコレシピコンテスト…残りがちな料理のアレンジや余った食材を上手に活用したレシピコンテストの開催 ②20・10・0運動…飲食店における食べ残しによる食品ロス削減のため、宴会の開始後20分と終了前10分は自席で料理を食べきろうという社会運動の展開 ③てまえどり…商品棚の手前にある販売期限の迫った商品を積極的に購入してもらうことで、販売期限が過ぎて廃棄される食品を削減する取組みの推進											
R6年度実績	事業評価指標		食品ロスを認知し、あまり食品を捨てていない人の割合（市民意識アンケート調査）									
	実績値		56%									
R6年度事業評価	○ 目標値は64%としていたため、評価は「○」とした。											
R7年度予定	継続（見直し）											
課題・R7方向性	取り組みごとに抽出した課題を解決するべく、令和7年度の方角性を見定めて取り組みを継続する。											

【取組の様子】

①エコレシビコンテスト	②20・10・0運動	③てまえどり
 市HP 		

担当課	環境部循環社会推進課
-----	------------

事業名等	環境優良事業者認定制度
------	-------------

基本施策／施策内容	環境に配慮した食育の推進 (4) 食品ロス削減につながる食育の推進		
基本目標	☐ 【1】食を楽しむ	☒ 【2】食を大切にする	☐ 【3】食で健康になる
施策の視点・考慮すべき点	☐ 若い世代に対する取組強化	☐ 「新たな日常」への対応	☒ SDGsへの貢献

事業目的・概要	環境分野におけるさまざまな課題解決に向け、SDGsのゴールやターゲットを意識し、積極的に取り組む事業者を「新潟市環境優良事業者（ONEカンパニー）」として認定し、その活動を広く周知することで、環境に配慮した事業者の活動を推進し、事業者及び市民にごみ減量及び3R推進の意識向上を図る。							
主なターゲット層	乳幼児期	学童期	思春期	青年期	壮年期	高齢期		
事業内容	認定事業者の取り組み内容を市ホームページや広報紙などで広く周知する。							
R6年度実績	事業評価指標	認定事業所数						
	実績値	575事業所						
R6年度事業評価	◎ 目標値は410事業所としていたため、評価は「◎」とした。							
R7年度予定	継続							
課題・R7方向性	取り組みを継続する。							

【取組の様子】

市HP


担当課	環境部循環社会推進課
-----	------------

事業名等	段ボールコンポスト普及啓発事業									
------	-----------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

基本施策／施策内容	環境に配慮した食育の推進 (5) 環境に配慮した消費の推進									
基本目標	☐ 【1】食を楽しむ		☒ 【2】食を大切にする			☐ 【3】食で健康になる				
施策の視点・考慮すべき点	☐ 若い世代に対する取組強化		☐ 「新たな日常」への対応			☒ SDGsへの貢献				

事業目的・概要	家庭から排出される生ごみの減量・資源化を推進する手法のひとつとして、家庭で手軽に取り組める段ボールコンポストの普及を図るため、平成27年10月から市オリジナルの段ボールコンポスト「サイチョのマジックダンボール」の製作・販売を開始。										
主なターゲット層	乳幼児期		学童期		思春期		青年期	◎	壮年期	◎	高齢期
事業内容	販売価格 ※販売は、市内に住所を有する者、居住する者を対象 ・セット 500円 (段ボール箱・基材・内袋・説明書) ・基材のみ 400円 (H28.6月から販売)										
R6年度実績	事業評価指標	段ボールコンポスト販売数 (セット及び基材)									
	実績値	287個									
R6年度事業評価	△ 目標値は655個としていたため、評価は「△」とした。										
R7年度予定	継続										
課題・R7方向性	啓発活動が停滞し、販売数が低下した。積極的な情報発信により、販売数の増を目指す。										

【取組の様子】

サイチョのマジックダンボール (セット)



市HP



担当課	環境部循環社会推進課
-----	------------

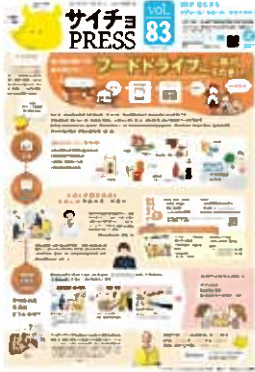
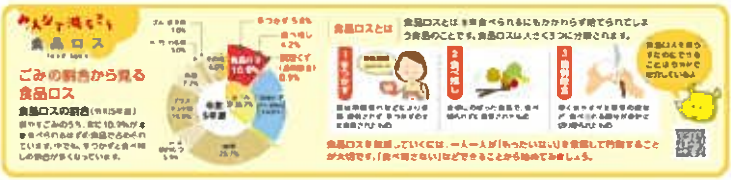
事業名等	資源とごみの情報紙「サイチョプレス」発行による市民向け広報
------	-------------------------------

基本施策／施策内容	環境に配慮した食育の推進 ☒ (5) 環境に配慮した消費の推進		
基本目標	☐ 【1】食を楽しむ	☒ 【2】食を大切にする	☐ 【3】食で健康になる
施策の視点・考慮すべき点	☐ 若い世代に対する取組強化	☐ 「新たな日常」への対応	☒ SDGsへの貢献

事業目的・概要	市のごみ減量推進キャラクターであるサイチョを活用した分かりやすく親しみやすい紙面構成により、市のごみ処理政策について時事のネタを盛り込んだ情報紙を新聞折込で発行することで、市民の廃棄物施策への理解を深めるとともに、ごみ減量および3R意識の向上を図ること。									
主なターゲット層	乳幼児期	学童期	思春期	△	青年期	◎	壮年期	◎	高齢期	
事業内容	新聞折込みで配布、新聞未購読者への郵送（市報にいがた郵送申込者）、公共施設等の窓口設置や市ホームページに掲載することで、多くの市民に市のごみ処理政策等を紹介する。また、ごみに関するアンケートを随時実施することで、広く市民の意見を集約する。発行回数は年6回。									
R6年度実績	事業評価指標	市が発信しているごみやリサイクルの情報を「サイチョプレス」で入手している人の割合（市民意識アンケート調査）								
	実績値	27.5%								
R6年度事業評価	◎ 令和6年度目標を25.5%としており、目標を達成したため、評価は「◎」とした。									
R7年度予定	継続（見直し）									
課題・R7方向性	・引き続きわかりやすい内容で双方向型の取り組みを加えるなど、記事や紙面構成に工夫をしながら発行を継続する。 ・他の広報媒体（新潟市公式LINE、SNS、アプリ等）と連動して記事内容を積極的に発信する。									

【取組の様子】

記事例



令和6年度バックナンバー

担当課	環境部循環社会推進課
-----	------------

事業名等	学校給食残渣堆肥化事業
------	-------------

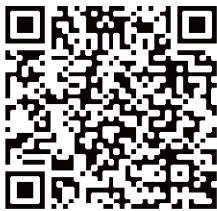
基本施策／施策内容	環境に配慮した食育の推進 (5) 環境に配慮した消費の推進		
基本目標	☐ 【1】食を楽しむ	☒ 【2】食を大切にする	☐ 【3】食で健康になる
施策の視点・考慮すべき点	☐ 若い世代に対する取組強化	☐ 「新たな日常」への対応	☒ SDGs への貢献

事業目的・概要	市内の直営給食実施校・幼稚園及び給食センターから排出される食品残さ（調理くず・食べ残し）をごみとして処分せず、堆肥化を行い、再利用を図ることを目的としている。											
主なターゲット層		乳幼児期	◎	学童期	◎	思春期	◎	青年期	◎	壮年期	◎	高齢期
事業内容	直営給食実施の各学校・幼稚園や給食センターから排出される給食残渣を堆肥化。排出された残渣は舞平清掃センター及び民間施設に搬入され堆肥化される。舞平清掃センターの堆肥は市民に無料配布、民間施設の堆肥は直接取引や地元農協を通じて農家などへ販売されている。											
R6年度実績	事業評価指標	学校給食残さの資源化率										
	実績値	100%										
R6年度事業評価	◎ 資源化に向く学校給食残さの全量を回収し堆肥化を行ったため、評価は「◎」とした。											
R7年度予定	継続（見直し）											
課題・R7方向性	堆肥化率向上に向けて、分別等、関係者との調整を進めていく。											

【取組の様子】

食べ残し	調理くず
	

担当課	環境部循環社会推進課
-----	------------

事業名等	地域の生ごみ堆肥化事業										
基本施策／施策内容	環境に配慮した食育の推進					(5) 環境に配慮した消費の推進					
基本目標	☐ 【1】食を楽しむ		☒ 【2】食を大切にする			☐ 【3】食で健康になる					
施策の視点・考慮すべき点	☐ 若い世代に対する取組強化		☐ 「新たな日常」への対応			☒ SDGsへの貢献					
事業目的・概要	家庭から出る生ごみを堆肥化し、その堆肥で育った作物を消費することで、食品（生ごみ）の地域資源循環ルートを構築し、生ごみの減量を図る。										
主なターゲット層	乳幼児期		学童期		思春期	△	青年期	◎	壮年期	◎	高齢期
事業内容	地域・家庭で出る生ごみの減量及び活用のため、江南区の拠点に生ごみ処理機を設置し、生ごみを持ち込む市民を会員として登録、生ごみを各拠点で堆肥化。できた堆肥を利用し、付近の農家、会員が野菜等を作る資源循環の構築。										
R6年度実績	事業評価指標	実行委員会会員数									
	実績値	228人									
R6年度事業評価	○ 目標値は230人としていたため、評価は「○」とした。										
R7年度予定	継続										
課題・R7方向性	令和元年度をピークに拠点が減り、回収量も一貫して減少傾向にあるため、今後見直しが必要。										
【取組の様子】											
処理機で堆肥化している様子					市HP						
											
担当課	環境部循環社会推進課										

事業名等	みなみく「未来」へつなげるSDGs
------	-------------------

基本施策／施策内容	環境に配慮した食育の推進 (5) 環境に配慮した消費の推進		
基本目標	☐ 【1】食を楽しむ	☒ 【2】食を大切にする	☐ 【3】食で健康になる
施策の視点・考慮すべき点	☐ 若い世代に対する取組強化	☐ 「新たな日常」への対応	☒ SDGsへの貢献

事業目的・概要	未来を担うこどもたちを対象に、今後の環境問題等へ取り組むきっかけづくりとするため、段ボールコンポストでSDGs教育を実施しました。									
主なターゲット層	◎ 乳幼児期	◎ 学童期		思春期		青年期		壮年期		高齢期
事業内容	① 段ボールコンポストで堆肥づくり ② 生ごみ堆肥を使って野菜の種植え ③ 野菜の収穫&給食									
R6年度実績	事業評価指標		南区内の協力保育園、児童館							
	実績値		連携2園、自走1園、連携1館							
R6年度事業評価	事業内容①～③を通じ、一連の資源サイクルを学ぶ取り組みを実施しました。さらに児童館ではプロサッカーチームのアルビレックス新潟と連携した取り組みを実施し収穫した野菜をこども食堂に提供し、それらの野菜を使った料理を来場者と一緒に食しながらこれまでの取り組みを紹介し、段ボールコンポストで「誰でも、身近で、簡単に」SDGsに取り組めることを学んでもらいました。									
R7年度予定	継続									
課題・R7方向性	課題 ・職員のマンパワー不足(定期巡回、天候等による生育不良への対応など) ・保育園の維持管理の負担軽減(維持管理しやすい野菜の選定など) R7方向性 ・課題の解決、持続可能な取り組みとなるよう、各種団体・地域の方々等から支援等を得ながら取り組みを進めていく。									

【取組の様子】

保育園の様子



児童館の様子









担当課	南区区民生活課
-----	---------

5 食の安全・安心に関する食育の推進

事業名等	「食の安全基本方針」の普及と取り組みの推進
------	-----------------------

基本施策／施策内容	食の安全・安心に関する食育の推進 / (1) 食品の安全性に関する知識と理解の増進		
基本目標	☐ 【1】食を楽しむ	☐ 【2】食を大切にする	☒ 【3】食で健康になる
施策の視点・考慮すべき点	☐ 若い世代に対する取組強化	☒ 「新たな日常」への対応	☐ SDGsへの貢献

事業目的・概要	食の安心の基盤となる食の安全について、食の安全基本方針に基づき、関連課、関係団体らと協働して食の安心・安全を確保するための事業に取り組む。										
主なターゲット層	乳幼児期	◎	学童期	◎	思春期	◎	青年期	◎	壮年期	◎	高齢期
事業内容	「食の安全基本方針」や「令和6年度新潟市食品衛生監視指導計画」に基づき、各事業を実施した。 また、関係団体、消費者協会、市民らで構成される食の安全意見交換会では、各事業の取組状況について意見交換を行い、次年度の計画に反映した。										
R6年度実績	事業評価指標		①中央図書館（ほんぽーと）での食中毒予防の啓発展示 ②食の安全意見交換会の開催								
	実績値		①2回（7月、12月） ②2回（8月、3月）								
R6年度事業評価	○ ①子どもの興味を引き付ける展示を行い、高い成果を上げた。 ②例年よりも委員の発言も多く、活発な意見交換を行うことができた。特にアレルギー事故への対策では、各事業者の立場に応じた対応状況を共有することができた。										
R7年度予定	継続										
課題・R7方向性	令和7年3月に改定された食の安全基本方針に基づき、行政、食品関連事業者及び市民が、それぞれ主体的に責務と役割を果たしながら、食の安心・安全を確保するための事業に取り組んでいきます。										

【取組の様子】



担当課	保健所食の安全推進課
-----	------------

事業名等	食肉の安全性についての情報提供
------	-----------------

基本施策／施策内容	食の安全・安心に関する食育の推進 / (1) 食品の安全性に関する知識と理解の増進		
基本目標	☐ 【1】食を楽しむ	☒ 【2】食を大切にする	☐ 【3】食で健康になる
施策の視点・考慮すべき点	☒ 若い世代に対する取組強化	☐ 「新たな日常」への対応	☒ SDGsへの貢献

事業目的・概要	食肉の安全性に関する市民の理解向上のために、食肉センターにおける食肉の衛生的な取り扱いや安全確保について、市政さわやかトーク宅配便や市政教室等を活用して情報提供を行った。											
主なターゲット層		乳幼児期	△	学童期	◎	思春期	◎	青年期	◎	壮年期		高齢期
事業内容	食肉の安全性に関しての理解向上のため、市政さわやかトーク宅配便、市政教室等にて、お肉ができるまでの流れと食肉衛生検査所の業務について説明する。また、希望に応じて、食中毒、家畜の病気等について説明する。											
R6年度実績	事業評価指標		取り組み数、参加人数									
	実績値		10回、251名									
R6年度事業評価	・昨年と同程度取り組むことができた（R5年は11回、171人） ○ 食肉への不信や不安がほとんどないと回答した人は76%だった（不安がある、少しあると回答した人は食中毒、飼育環境等を理由としていた）											
R7年度予定	継続											
課題・R7方向性	食肉の安全性の理解向上にむけ、講習会内容を随時アップデートしていく。											

【取組の様子】



担当課	食肉衛生検査所
-----	---------

事業名等	食品表示に係る食の情報展示
------	---------------

基本施策／施策内容	食の安全・安心に関する食育の推進 (2) 食品表示の理解促進		
基本目標	☒ 【1】食を楽しむ	☒ 【2】食を大切にする	☒ 【3】食で健康になる
施策の視点・考慮すべき点	☒ 若い世代に対する取組強化	☐ 「新たな日常」への対応	☒ SDGsへの貢献

事業目的・概要	来館者が体験的に学べる展示物の設置により、実践に役立つ継続的な情報発信を行う。										
主なターゲット層	乳幼児期	◎	学童期	◎	思春期	◎	青年期	◎	壮年期	◎	高齢期
事業内容	・「食品の分類と表示」と「食品の保存方法」をテーマとした体験型の展示を行った。 ・子ども達が好きそうなお菓子や食品のパッケージを使う、虫眼鏡で表示を見れるようにする、表示を見て食品を冷蔵、冷凍に仕分けする等子どもたちに興味や関心をもってもらよう工夫した。										
R6年度実績	事業評価指標		揭示期間								
	実績値		年間を通して揭示								
R6年度事業評価	立ち止まってじっくり見る方や親子でお菓子のパッケージを手にとり、虫眼鏡を使って表示を見たり、食品を冷蔵や冷凍に仕分けしている姿をよく見かけるようになった。										
R7年度予定	継続										
課題・R7方向性	・上記2テーマに加え「消費期限と賞味期限」「栄養成分表示5項目」の計4テーマを継続的に展示し、情報発信していく。 ・展示物を使用したワークショップを企画し、より多くの方への周知を図る。										

【取組の様子】



担当課	食と花の推進課（食育・花育センター）
-----	--------------------

「令和6年度 食育推進施策実施状況報告書」

新潟市農林水産部 食と花の推進課 作成